

注3

大学番号：国008

[平成28年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

事前伺い

弘前大学 農学生命科学部
生物学科・分子生命科学科・食料資源学科
国際園芸農学科・地域環境工学科

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人弘前大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	学長戦略室
職名・氏名	キカクチョウセイヤク 企画調整役 イシドヤ マサミ 石戸谷 昌実
電話番号	0172-39-3838
（夜間）	0172-39-3838
F A X	0172-39-3499
e-mail	jmgaku@hirosaki-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

農学生命科学部

<生物学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	18
6. 留意事項等に対する履行状況等	47
7. その他全般的事項	49

<分子生命科学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	54
2. 授業科目の概要	58
3. 施設・設備の整備状況、経費	66
4. 既設大学等の状況	67
5. 教員組織の状況	70
6. 留意事項等に対する履行状況等	98
7. その他全般的事項	100

<食料資源学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	105
2. 授業科目の概要	109
3. 施設・設備の整備状況、経費	120
4. 既設大学等の状況	121
5. 教員組織の状況	124
6. 留意事項等に対する履行状況等	153
7. その他全般的事項	155

＜国際園芸農学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	160
2. 授業科目の概要	164
3. 施設・設備の整備状況、経費	173
4. 既設大学等の状況	174
5. 教員組織の状況	177
6. 留意事項等に対する履行状況等	207
7. その他全般的事項	209

＜地域環境工学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	214
2. 授業科目の概要	218
3. 施設・設備の整備状況、経費	227
4. 既設大学等の状況	228
5. 教員組織の状況	231
6. 留意事項等に対する履行状況等	259
7. その他全般的事項	261

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 弘前大学

(2) 大学名

弘前大学

(3) 大学の位置

〒036-8560

青森県弘前市大字文京町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	サトウ ケイ 佐藤 敬 平成24年2月		
学部長	ハシモト マサル 橋本 勝 平成28年4月	マツザキ マサトシ 松崎 正敏 平成29年5月	辞任のため変更(29) ※事務取扱
学科長	フクザワ マサシ 福澤 雅志 平成28年4月	スギヤマ シュウイチ 杉山 修一 平成29年4月	任期満了のため変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
農学生命科学部 生物学科 学士(農学生命科学)	理学関係 農学関係	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	40 (—) [若干名]	人	人	40 (—) [若干名]	人	人	() () []	人	人	1.01 倍	
志願者数	169 (—) [2]	— (—) [—]	158 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	130 (—) [1]	— (—) [—]	106 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	46 (—) [—]	— (—) [—]	44 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	40 (—) [—]	— (—) [—]	41 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.02										

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	40 [-] (-)	- [-] (-)	41 [-] (-)	- [-] (-)							
2年次	/		38 [-] (-)	- [-] (-)							
3年次			/								
4年次	/										
計			40 [-] (-)		79 [-] (-)						

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
			平成28年度 入学者	40 人	2 人		
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	41 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	81 人	2 人					2.46 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らしてはいけません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<農学生命科学部 生物学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	導入科目 基礎ゼミナール	1前	2			8 24 25	14 28 31		1 12 10		当該年度担当の教員を計上 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	スキル 地域学ゼミナール	1後	2			5 24 25	3 28 31		1 12 10		兼46 兼48 兼46 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
	ローカル科目	青森の行政	1前		2							兼1 兼2 兼4 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の経済・産業	1前		2							兼5 兼3 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		青森の文化	1前		2							兼10 兼7 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の歴史	1前		2							兼3 兼9 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の芸術	1前		2							兼3 兼7 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の民俗・芸能	1前		2							兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		青森の自然	1前		2		7 4 2	9 4		1		兼19 兼22 兼16 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2			4				兼4 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
国際地域		1後		2							兼6 兼8 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
比較文化		1後		2							兼4 兼3 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
世界の芸術・芸能		1後		2							兼3 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
地球環境		1後		2		4 4	2 3				兼5 兼3 兼1 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
グローバルヘルス		1後 未開講 4後		2							兼5 兼50 通常開講 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 2年次以上の受講科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講 (28)	
学部越境型地域志向科目	日本	1後		2							兼9 兼8 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
	青森の多様性と活性化	2前～4後		2		1 3	4				兼29 兼24 兼62 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	青森の食と産業化	2前～4後		2		2	5				兼2 兼6 兼8 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	市民参加と地域づくり	2前～4後		2							兼8 兼14 兼10 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
	青森エクスカージョン	2前～4後		2			2				兼15 兼12 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
地域プロジェクト演習	2前～4後		2							兼18 兼17 兼23 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)		

社会・文化	くらし・文化	1前・後	2						兼5 兼3 兼2	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	歴史・地理	1前・後	2	1					兼6 兼5	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	思想	1前・後	2						兼3 兼4 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	言語学の世界	1前・後	2						兼2 兼3 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	文学	1前・後	2						兼3 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	芸術	1前・後	2						兼16 兼17 兼22	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	政治経済・社会	1前・後	2						兼12 兼18 兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	法と社会 A	1前・後	2						兼1 兼2 兼4	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	法と社会 B	1前・後	2						兼3 兼2 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
自然・科学	環境と生活	1前・後	2	1	1				兼34 兼34 兼17	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	工学の世界	1前・後	2	-4	4		1		兼4 兼6 兼8	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	農学の世界	1前・後	2	2	4		1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	数学の世界	1前・後	2	4					兼1 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	物理学の世界	1前・後	2			1			兼8 兼9 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	化学の世界	1前・後	2	2	3	1			兼7 兼11 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	生物学の世界	1前・後	2	7	8	2			兼10 兼12 兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報処理入門 A	1前・後	2						兼3 兼4 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	情報処理入門 B	1前・後	2	4	1				兼14 兼11 兼21	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
人間・生命	人間の尊厳	1前・後	2						兼5 兼6 兼7	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	人を育む営み	1前・後	2						兼19 兼23 兼17	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	心理学の世界	1前・後	2						兼9 兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	メンタルヘルス	1前・後	2						兼8 兼5 兼14	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	生活と健康	1前・後	2	1					兼8 兼18	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	運動と健康 A	1前・後	2						兼15 兼16 兼13	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	運動と健康 B	1前・後	2						兼3 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)

	医学・医療の世界	1前・後	2			2			兼50 兼60 兼48 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報と健康・医学	1前・後	2						兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
キャリア教育	キャリア形成の基礎	1後	1 2						兼4 兼3 COC+事業採択に伴うかかわり改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる単位数及び教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	キャリア形成の発展	2前	3						兼5 兼4 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) COC+事業採択に伴うかかわり改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目追加 (28)
	キャリア形成の発展A	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかかわり改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展B	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかかわり改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展C	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかかわり改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリアデザイン	2前～4後	2		1 2	4			兼6 兼10 兼2 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
英語	Listening (初級)	1前	2						兼7 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (中級)	1前	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (上級)	1前	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (初級)	1前	2						兼8 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (中級)	1前	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (上級)	1前	2						兼3 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (初級)	1後	2						兼7 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (初級)	1後	2						兼9 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		Integrated A (国際共通語としての英語)	2前	2			1		
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 1	2後	2						兼2 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 2	3前	2						兼41 兼22 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated C (キャリア英語)	3前	2						兼41 兼22 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
多言語	ドイツ語 I	1前	4						兼5 兼8 兼2 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)

		ドイツ語Ⅱ	1後	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		ドイツ語Ⅲ	2後	2						兼1 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		フランス語Ⅰ	1前	4						兼5 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		フランス語Ⅱ	1後	4						兼3 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		フランス語Ⅲ	2前	2						兼1 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		ロシア語Ⅰ	1前	4						兼1				
		ロシア語Ⅱ	1後	4						兼1				
		中国語Ⅰ	1前	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		中国語Ⅱ	1後	4						兼3 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		朝鮮語Ⅰ	1前	4						兼1				
		朝鮮語Ⅱ	1後	4						兼1				
		日本語A	1前	2						兼2	教育内容充実のため、科目の追加 (29)			
		日本語B	1前	2						兼1	教育内容充実のため、科目の追加 (29)			
専門教育科目(基礎生物学コース)	コア科目	学部共通	農学生命科学概論	1前	2		1	1		1	兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)		
		国際食料流通論	1後	2		2	4			2	兼1			
		起業ビジネス論	3前	2							兼1			
	学科共通	基礎生物学A	1前	2		1	2							
		基礎生物学C	1前	2		1	2							
		基礎生物学B	1後	2		1								
		基礎生物学D	1後	2		2	2						教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		生物学実験Ⅰ	2前	1		1	3			1				
		生態学野外実験	2前	1		1	3			2				
		生物学実験Ⅱ	2後	2		4	4			2			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		外書講読	2後	2		3	5							
		専門英語Ⅰ	3前	2		5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		生物学専門実験Ⅰ	3前	1		4	7			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		生物学専門実験Ⅱ	3後	1		5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		専門英語Ⅱ	3後	2		5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		生物学演習	4前・後	2		5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		卒業研究	3後・4前・後	6		5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		専門基礎科目	必修科目	植物発生形態学	2前	2			1					
			動物発生生物学	2前	2				1					
			植物生理学A	2前	2		1							
動物生理学	2前		2				1							
選択必修科目	生化学Ⅰ		1後	2							兼1			
分子生物学Ⅰ	2前		2								兼1			
細胞生物学Ⅰ	2前		2								兼1			
	植物環境応答学Ⅰ	2前	2		1									

	植物生理学B	2前	2		1								
	進化生態学	2前	2		1								
	保全生態学	2前	2	1	4							教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	水圏資源管理学	2後	2	1	4							教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	植物生態学	2後	2	1									
	細胞生物学Ⅱ	2後	2		1								
	生殖生物学	2後	2		1								
選択科目	物理学の基礎A	1前	2									兼1	
	化学の基礎A	1前	2									兼1	
	作物育種学Ⅰ	1前	2									兼1	
	物理学の基礎B	1後	2									兼1	
	化学の基礎E	1後	2									兼5 兼3	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
	臨海実習	2前	2			2			2 ↓				教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
	農場実習	2前	2									兼4	
	生化学Ⅱ	2前	2									兼1	
	分子生物学Ⅱ	2後	2									兼1	
	昆虫生物学	2後	2			1							
作物バイオテクノロジー	3前	2									兼1		
専門科目	水産増殖学	2後	2					1					
	分子進化学	2後	2			1							
	細胞遺伝学	3前	2		1								
	動物行動学	3前	2					1					
	生物統計学	3前	2		1								
	植物環境応答学Ⅱ	3前	2		1								
	植物分子生理学	3前	2		1	1							
選択科目	応用昆虫学	2前	2									兼1	
	作物学汎論	2前	2									兼1	
	食の機能・安全科学	2後	2									兼6 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
	作物ゲノム学Ⅰ	2後	2									兼1	
	細胞分子生物学	2後	2									兼1	
	蔬菜園芸学Ⅰ	2後	2									兼1	
	森林生態学	2後	2			1			1				
	植物病理学	2後	2									兼1	
	基礎土壌学	2後	2									兼1	
	海外研修入門	2通	1		3								
	酵素化学	3前	2									兼1	
	菌学	3前	2									兼1	
	生態遺伝学	3前	2			1							
	インターンシップ	3前	1		5 4	6 7			3				教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	微生物生態学	3前	2									兼1	
	遺伝子工学	3前	2									兼1	
	畜産学汎論	3前	2									兼2	
	循環土壌学	3前	2									兼1	
	作物生態学	3前	2									兼1	
	植物病原学	3前	2									兼1	
	食品分析学	3前	2									兼1	
	生物情報科学	3前	2									兼1	
	農業気象学	3後	2									兼1	
園芸学	3後	2									兼3		
家畜生理学	3後	2									兼1		
作物栽培管理学	3後	2									兼1		

		国際作物生産論	3後		2							兼1		
		栽培環境学	4前		2							兼1		
		食品衛生学	4前		2							兼1		
		食品製造学	4前		2							兼1		
		国際食品マーケティング論	4前		2							兼1		
		栽培土壌学	4後		2							兼1		
		国際フードビジネス論	4後		2							兼1		
		国際有機資源論	4後		2							兼4		
		食品科学	4後		2							兼1		
専門教育科目（生態環境コース）	コア科目	農学生命科学概論	1前	2			1	1			1	兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更（29） 教育効果充実のため、担当教員の変更（28）	
		国際食料流通論	1後	2								兼1		
		起業ビジネス論	3前	2									兼1	
	学科共通	基礎生物学A	1前	2			1	2						
		基礎生物学C	1前	2			1	2						
		基礎生物学B	1後	2			1							
		基礎生物学D	1後	2			2	2						教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		生物学実験Ⅰ	2前	1			1	3			1			
		生態学野外実験	2前	1			1	3			2			
		生物学実験Ⅱ	2後	2			4	4			2			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		外書講読	2後	2			2	3						
		専門英語Ⅰ	3前	2			5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		生物学専門実験Ⅰ	3前	1			5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		生物学専門実験Ⅱ	3後	1			5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		専門英語Ⅱ	3後	2			5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		生物学演習	4前・後	2			5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		卒業研究	3後・4前・後	6			5	6			3			教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
	専門基礎科目	必修科目	保全生態学	2前	2			1	4					教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
			進化生態学	2前	2				1					
			植物生態学	2後	2			1						
森林生態学			2後	2				1			1			
選択必修科目		生化学Ⅰ	1後		2								兼1	
		分子生物学Ⅰ	2前		2								兼1	
		細胞生物学Ⅰ	2前		2								兼1	
		植物環境応答学Ⅰ	2前		2		1							
		植物生理学A	2前		2		1							
		植物生理学B	2前		2				1					
		植物発生形態学	2前		2				1					
		動物発生生物学	2前		2				1					
		水圏資源管理学	2後		2		1	4						教育効果充実のため、担当教員の変更（28）
		昆虫生物学	2後		2				1					
細胞生物学Ⅱ		2後		2				1						
生殖生物学		2後		2				1						
選択科目		物理学の基礎A	1前		2								兼1	
	化学の基礎A	1前		2								兼1		
	作物育種学Ⅰ	1前		2								兼1		
	物理学の基礎B	1後		2								兼1		
	化学の基礎E	1後		2								兼5 兼3	教育内容充実のため、担当教員の追加（29）	

- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

基礎生物学コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
24	142	0	166	24	142 140 0	0	166 164 0	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

生態環境コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
24	143	0	167	24	142 140 △1	0	166 164 △1	
				[0]	[△3]	[0]	[△3]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	グローバルヘルス	2	1後	一般	選択	2年次以上のグローバル科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講。代替措置無。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	キャリア形成の発展A	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
2	キャリア形成の発展B	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
3	キャリア形成の発展C	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「グローバルヘルス」は、2年次以上が受講する21世紀教育科目(平成27年度までの入学者を対象とした旧教養教育科目)を優先して開講したため、後期に教員を配置することが出来ず、未開講となった。ただし、選択科目であり、グローバル科目が他にも多数開講されること、平成29年度は開講予定で希望すれば受講出来ることから、学生への影響はない。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みである。</p> <p>COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施に伴い、キャリア教育科目全体の教育内容を、多様なプログラムを含む、より充実したカリキュラムとするため、「キャリア形成の発展A」、「キャリア形成の発展B」、「キャリア形成の発展C」を廃止し、新たに「キャリア形成の発展」を追加する等の見直しを行った。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みであることから、影響はない。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

基礎生物学コース				
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{4}{166}$	=	2.4
設置時の計画の授業科目数の計(A)				
生態環境コース				
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{4}{167}$	=	2.39
設置時の計画の授業科目数の計(A)				

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	76,254 m ²	0 m ²	0 m ²	76,254 m ²				
	運動場用地	82,910 m ²	0 m ²	0 m ²	82,910 m ²				
	小 計	159,164 m ²	0 m ²	0 m ²	159,164 m ²				
	そ の 他	169,525 m ²	0 m ²	0 m ²	169,525 m ²				
	合 計	328,689 m ²	0 m ²	0 m ²	328,689 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		166,219 m ² (167,762 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	166,219 m ² (167,762 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		99 室	108 室	455 室	11 室 (補助職員 0人)	7 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		農学生命科学部 生物学科			14 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
		冊	種	[うち外国書]					点
		819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
	計	819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
(6) 図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		7,680 m ²		626 席	867,806 冊				
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,394 m ²		野球場 (2面) 弓道場 (140m ²)		武道場 (883m ²) テニスコート (8面)			
		1,457 m ²		プール (50m) 馬房 (196m ²)		サッカー・ラグビー場 (2面) 400mトラック			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	弘前大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
《AC対象学部等》 【学部】									
人文社会科学部									
文化創生課程	4	110	0	220	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
社会経営課程	4	155	0	310	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	同上	
理工学部									
数物科学科	4	78	3年次 2	156	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
物質創成化学科	4	52	3年次 1	196	学士 (理工学)	1.01	平成18年度	同上	平成28年度入学定員増(6人)
地球環境防災学科	4	65	3年次 2	130	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
電子情報工学科	4	55	3年次 2	226	学士 (理工学)	1.02	平成18年度	同上	平成28年度入学定員減(△3人)
機械科学科	4	80	3年次 2	160	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	60	学士 (理工学)	1.03	平成28年度	同上	
農学生命科学部									
生物学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
分子生命科学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.00	平成20年度	同上	
食料資源学科	4	55	0	110	学士 (農学生命科学)	1.00	平成28年度	同上	
国際園芸農学科	4	50	0	100	学士 (農学生命科学)	1.01	平成28年度	同上	
地域環境工学科	4	30	0	120	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	同上	
【大学院】									
教育学研究科 (専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	16	0	16	教職修士 (専門職)	1.12	平成29年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
《その他の学部等》 【学部】									
人文学部									
人間文化課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度より学生募集停止
現代社会課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
経済経営課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	150	0	590	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度入学定員増(5人)

養護教諭養成課程	4	20	0	90	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	同上	平成28年度入学定員減(△5人)
生涯教育課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成12年度	同上	平成28年度より学生募集停止
医学部									
医学科	6	112	2年次 20	760	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	青森県弘前市大字在府町5番地	
保健学科	4	200	3年次 30	860	学士 (看護学又は保健学)	1.00	平成12年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
理工学部									
数理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	平成28年度より学生募集停止
物理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
地球環境学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
農学生命科学部									
生物資源学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	平成28年度より学生募集停止
園芸農学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	
【大学院】									
人文社会科学研究科									
(修士課程)									
文化科学専攻	2	10	0	20	修士 (人文社会科学)	0.90	平成11年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
応用社会科学専攻	2	6	0	12	修士 (人文社会科学)	0.66	平成11年度	同上	
教育学研究科									
(修士課程)									
学校教育専攻	2	16	0	22	修士 (教育学)	1.27	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度入学定員増(10人)
教科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成14年度	同上	
医学研究科									
(博士課程)									
医科学専攻	4	60	0	220	博士 (医学)	0.95	平成16年度	青森県弘前市大字在府町5番地	平成28年度入学定員増(10人)
保健学研究科									
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	30	0	60	修士 (看護学又は保健学)	1.13	平成19年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	12	0	33	博士 (保健学)	1.00	平成19年度	同上	平成28年度入学定員増(3人)
理工学研究科									
(博士前期課程)									

理工学専攻 (博士後期課程)	2	120	0	240	修士 (理工学)	0.91	平成22年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
機能創成科学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.62	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
安全システム工学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.87	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
農学生命科学研究科 (修士課程)									
農学生命科学専攻	2	60	0	120	修士 (農学生命科学)	0.77	平成24年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
地域社会研究科 (博士課程)									
地域社会専攻	3	6	0	18	博士 (学術)	1.44	平成14年度	青森県弘前市大字文京町1番地	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学生命科学部 生物学科>

(1) 担当教員表

<学部共通教養教育科目>

<專門科目>

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
4	7	0	3	14	5	6	0	3	14	5	7	0	2	14
(5)	(6)	(0)	(3)	(14)						[1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入すると [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計（A）					後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計（C）					後任補充状況の集計（D）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年4月)	【人文社会科学部】 実習科目が、施設見学や裁判傍聴などの感想文を書かせる類の単なる社会科見学とならないよう、しっかりした実施計画の具体化を図ることが望ましい。	要望意見	実習科目について、「地域行政実習」及び「地域司法実習」を含めて、教育成果の検証等にまでふみこんだ入念な実施計画を事前に作成し、計画に沿って実施している。(29)
設 置 時 (平成28年4月)	【理工学部】 「数物科学科」の2年次コース選択において、学生に対する適切なオリエンテーションを行い、学生に各コースの特色を理解させた上で、各コースの履修生を教育指導体制等を踏まえた適切な数とすることが望ましい。	要望意見	数物科学科の2年次コース選択において、学生が各コースの特色や履修内容を理解できるようオリエンテーションを行った。その後、希望調査の結果に基づき、教員数や実験設備等の教育指導体制の観点から適切な人数になるよう調整し、各コースに所属した。(29)
設 置 時 (平成28年4月)	【農学生命科学部】 1. 食料資源学科について、食料バイオテクノロジーコースが含まれており、既存の分子生命科学科との区別がつきにくい。分子生命科学科の説明にも、「新規食材の発掘と開発や発酵による食品の開発等の知識を持った人材育成の強化を図る」と書かれており、食料資源学科との異同が分りにくいため、適切に説明することが望ましい。	要望意見	1. 要望意見を踏まえ、分子生命科学科の説明を「新規機能性食材の発掘と開発や、発酵による有用物質生産等の知識を持った人材育成の強化を図る。」へ修正し、設置報告書を提出した。
	2. 食料資源学科の3つのコースのカリキュラム上の違いが明確ではないため、コースごとの教育課程編成の特色及びその違いを明確に説明することが望ましい。	要望意見	2. 要望意見を踏まえ、各コースの特色を記載し、それに合わせて履修モデルを修正し、設置報告書を提出した。
	3. コア科目の「国際農業論」は、流通・貿易に焦点を置いているので、例えば、「国際食料流通論」等を含め、科目名称に再検討することが望ましい。	要望意見	3. 要望意見を踏まえ、「国際農業論」から「国際食料流通論」へ科目名を変更し、設置報告書を提出した。
	4. 多言語科目は、その多くが半期で4単位を配当しているが、週に2コマ開講するとすれば、専門科目の数が多めに設定されていることを考慮すると、どのような時間割編成になるのが懸念されるため、学生が希望する履修ができるよう時間割編成に配慮することが望ましい。	要望意見	4. 学生が希望する教養科目（多言語科目等）の履修が可能となるように、専門科目の時間割編成において配慮している。また、新入生ガイダンスや履修相談において、適切な指導を行っている。(29)
	【教育学研究科教職実践専攻】 1. 設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに教育委員会等と連携を図り、理論と実践を融合し、高度な実践力・応用力を備えた教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、教育目標と、その評価の基準・方法の明確化を図りつつ、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。		1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画に沿って準備を進めた。 平成28年度は、教職大学院専任教員（予定）及び事務方による教職大学院準備室会議を4月以降、原則、週1回開催し、設置の趣旨・目的の確認から始め、各項目の具体化に向けて協議を重ね、設置の準備に当たった。 また、専任教員（予定）4名が、6月に山梨大学教職大学院の授業及び実習を視察し、開校時への準備を進めた。さらに、教職大学院協会の研究集会や各教職大学院で開催されるフォーラムに専任教員（予定）6名が分担して参加し、情報収集を行った。

<p>設置時 (平成29年4月)</p>		<p>留意事項</p> <p>平成29年度に就任予定である8名の専任教員とは、教育学部長と教職大学院準備室長が個別に1～2回面談を行い、設置の趣旨・目的の共有を図った。</p> <p>教育委員会との協議については、青森県教育委員会とは、青森県教育委員会教職大学院担当者及び青森県教育センター担当者と教職大学院準備室長及び準備室教委担当者が、4月から月1回程度会議を行い、教育内容及び実習等の連携協力について協議を重ね、開設時に授業や実習等がスムーズに進むよう準備を重ねた。また弘前市教育委員会とは、実習担当教員（予定）が弘前市教育委員会に月1回程度出向き、関係者に実習についての説明と連携協力についての具体策を協議した。さらに、実習担当教員（予定）が連携協力校に出向き、開校時に実習が滞りなく行える様に調整を行った。</p> <p>平成29年度に入り、専任教員の会議である大学院教育学研究科教職実践専攻会議を6回及びFD活動を7回開催し、授業、実習等のポートフォリオの形式と評価、教育実践研究科目の実施方法、教職大学院の運営等について協議を行った。(29)</p>	
	<p>2. ミドルリーダー養成コースの履修モデルについて、学生が自ら高めたい分野・領域に応じた推奨科目が示されているが、学生に自らがどのような力をつけたいか考えさせるとともに、より効果的な学修を实践するため、大学の推奨科目の履修を促す履修指導を行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>2. 入学後に開かれるガイダンスにおいて、授業科目の概要の説明を行うとともに、個別に履修相談を行う時間を設け、教務担当教員が各学生の学校現場での現在の役割や学生自身のキャリア形成計画及び研究課題意識を聞き取った上で、選択すべき授業科目を履修するよう指導を行った。(29)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<農学生命科学部 生物学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>①農学生命科学部自己評価委員会</p> <p>②農学生命科学部教育改善委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>①年間4回程度（委員：各学科・センターから計6名）</p> <p>②年間1回程度（委員：教育担当運営会議委員1名及び各学科・センターから6名の計7名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>それぞれの委員会申し合わせに定めるところによる。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容(教員資質向上にかかるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生及び教員へのアンケート（学部授業実施状況等，教育評価）分析結果報告会 ・ FD講演会（AO入試Q&A） ・ FD講演会（教育改善の取組事例） <p>b 実施方法</p> <p>自己評価委員会を中心に、学部卒業生及び教員へのアンケートを実施し、項目別に結果分析・考察をしたのちに報告会を開催する予定である。その後、各学科や教育改善委員会からのコメントを収集し、教育改善に向けたアンケート調査報告書を作成し公開する。また、教育改善委員会を中心に、学部FD講演会を実施する予定である。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>年間4回程度開催予定</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>アンケート分析は毎年実施しているため、経年的な教員の授業改善状況が把握でき、学科別での状況も分かる。各教員は、学生の授業アンケート結果を参考に授業改善に取り組んでおり、学科の教育目的・目標に沿った授業シラバスを作り、講義を行っている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>卒業時（1-2月）に、学部での学修期間に対する授業評価アンケートを実施予定</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>アンケート結果を報告書として、学部ホームページ上に公開予定</p>
--

- (注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するように計画通りに実施している。今後、更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

学内検討中

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(29年 5月 30日)

○弘前大学農学生命科学部自己評価委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、本学部における教育研究活動の向上を目的として、自ら点検及び評価を行うため、弘前大学農学生命科学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 弘前大学農学生命科学部自己点検項目表（以下「項目表」という。）に基づき、自己点検の範囲を定め、自己評価の実施計画を作成し、教授会に提案する。
- (2) 自己点検を実施し、その結果を取りまとめる。
- (3) 項目表中の学部全体を対象とする項目については本委員会が自己点検・評価を行う。
- (4) 自己点検・自己評価の結果及び改善すべき事項について教授会に報告する。
- (5) 自己点検・自己評価の結果について教授会の議を経て、公表する。

(組織)

第3条 委員会は、本学部各学科及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センターから選出された専任担当教員（弘前大学農学生命科学部長及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター長を除く）各1名で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年半とし、再任を認めない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員の改選は2年ごとに事業年度の開始に合わせて行い、第1項の任期における最後の半年間は新旧委員が重複し、旧委員は「教育改善に向けたアンケート調査報告書」の作成にのみ従事する。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって決める。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長の任期は2年とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員の3名以上の出席をもって成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(兼務)

第8条 委員は、弘前大学諸規程に定められた次の室員を兼ねる。

- (1) 評価室員

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、弘前大学農学生命科学部総務グループ総務担当において処理する。

(その他)

第10条 この申合せに定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成16年10月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成22年10月20日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

○弘前大学農学生命科学部教育改善委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、弘前大学農学生命科学部教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育改善のための企画、調査、研究等に関すること。
- (2) 教育活動の評価に関すること。
- (3) 学生による授業評価に関すること。
- (4) ファカルティ・デベロップメントに関すること。
- (5) その他教育改善に関する事項。

(組織)

第3条 委員会は、弘前大学農学生命科学部運営会議学務担当委員（以下「運営会議委員」という。）及び本学部各学科と弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（以下「共生センター」という。）から選出された各1名の専任担当教員により構成される。

(委員の任期)

第4条 本学部各学科及び共生センターから選出された委員の任期は2年とし、半数交替制とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 運営会議委員の本委員会委員としての任期は、弘前大学農学生命科学部運営会議委員の任期に関わる申合せによる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、運営会議委員が委員長となる。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第6条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(申合せの改廃)

第7条 この申合せの改廃については、教授会の議を経て弘前大学農学生命科学部長が行う。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成21年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成27年4月1日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 弘前大学

(2) 大学名

弘前大学

(3) 大学の位置

〒036-8560

青森県弘前市大字文京町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	サトウ ケイ 佐藤 敬 平成24年2月		
学部長	ハシモト マサル 橋本 勝 平成28年4月	マツザキ マサトシ 松崎 正敏 平成29年5月	辞任のため変更(29) ※事務取扱
学科長	トノウチ アキオ 殿内 暁夫 平成28年4月	ヒメノ ヒョウタ 姫野 俵太 平成29年4月	任期満了のため変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
農学生命科学部 分子生命科学科 学士(農学生命科学)	理学関係 農学関係	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	40	—	40	—	()	()	()	()	1.01 倍	
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]	[若干名]		
志願者数	229	—	146	—	()	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[4]	[—]	[2]	[—]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
受験者数	137	—	78	—	()	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[3]	[—]	[1]	[—]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
合格者数	47	—	44	—	()	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[—]	[—]	[1]	[—]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
B 入学者数	40	—	41	—	()	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[—]	[—]	[1]	[—]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.02									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	40 [-] (-)	- [-] (-)	41 [1] (-)	- [-] (-)							平成29年度 2年次 退学(1人) 国際園芸農学科へ転学科 (1人)	
2年次	/		38 [-] (-)	- [-] (-)								
3年次			/		/							
4年次							/		/			
計			40 [-] (-)	79 [1] (-)								

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
			平成28年度 入学者	40 人	1 人		
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	41 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	81 人	1 人					1.23 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らしてはいけません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<農学生命科学部 分子生命科学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	導入科目 基礎ゼミナール	1前	2			8 24 25	14 28 31		1 12 10		当該年度担当の教員を計上 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	スキル 地域学ゼミナール	1後	2			5 24 25	3 28 31		1 12 10		兼46 兼48 兼46 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
	ローカル科目	青森の行政	1前		2							兼1 兼2 兼4 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の経済・産業	1前		2							兼5 兼3 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		青森の文化	1前		2							兼10 兼7 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の歴史	1前		2							兼3 兼9 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の芸術	1前		2							兼3 兼7 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の民俗・芸能	1前		2							兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		青森の自然	1前		2		7 4 2	9 4		1		兼19 兼22 兼16 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2			4				兼4 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
国際地域		1後		2							兼6 兼8 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
比較文化		1後		2							兼4 兼3 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
世界の芸術・芸能		1後		2							兼3 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
地球環境		1後		2		4 4	2 3				兼5 兼3 兼1 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
グローバルヘルス		1後 未開講 4後		2							兼5 兼50 通常開講 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 2年次以上の受講科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講 (28)	
学部越境型地域志向科目	日本	1後		2							兼9 兼8 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
	青森の多様性と活性化	2前～4後		2		1 3	4				兼29 兼24 兼62 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	青森の食と産業化	2前～4後		2		2	5				兼2 兼6 兼8 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	市民参加と地域づくり	2前～4後		2							兼8 兼14 兼10 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
	青森エクスカーション	2前～4後		2			2				兼15 兼12 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
地域プロジェクト演習	2前～4後		2							兼18 兼17 兼23 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)		

社会・文化	くらし・文化	1前・後	2						兼5 兼3 兼2	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	歴史・地理	1前・後	2	1					兼6 兼5	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	思想	1前・後	2						兼3 兼4 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	言語学の世界	1前・後	2						兼2 兼3 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	文学	1前・後	2						兼3 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	芸術	1前・後	2						兼16 兼17 兼22	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	政治経済・社会	1前・後	2						兼12 兼18 兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	法と社会 A	1前・後	2						兼1 兼2 兼4	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	法と社会 B	1前・後	2						兼3 兼2 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
自然・科学	環境と生活	1前・後	2	1	1				兼34 兼34 兼17	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	工学の世界	1前・後	2	-4	4		1		兼4 兼6 兼8	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	農学の世界	1前・後	2	2	2		1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	数学の世界	1前・後	2	1					兼1 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	物理学の世界	1前・後	2			1			兼8 兼9 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	化学の世界	1前・後	2	2	2				兼7 兼11 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	生物学の世界	1前・後	2	7	7				兼10 兼12 兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報処理入門 A	1前・後	2						兼3 兼4 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	情報処理入門 B	1前・後	2	1	1				兼14 兼11 兼21	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
人間・生命	人間の尊厳	1前・後	2						兼5 兼6 兼7	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	人を育む営み	1前・後	2						兼19 兼23 兼17	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	心理学の世界	1前・後	2						兼9 兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	メンタルヘルス	1前・後	2						兼8 兼5 兼14	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	生活と健康	1前・後	2	1					兼8 兼18	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	運動と健康 A	1前・後	2						兼15 兼16 兼13	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	運動と健康 B	1前・後	2						兼3 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)

	医学・医療の世界	1前・後	2			2			兼50 兼60 兼48 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報と健康・医学	1前・後	2						兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
キャリア教育	キャリア形成の基礎	1後	1 2						兼4 兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる単位数及び教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	キャリア形成の発展	2前	3						兼5 兼4 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目追加 (28)
	キャリア形成の発展A	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展B	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展C	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリアデザイン	2前～4後	2		1 2	4			兼6 兼10 兼2 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
英語	Listening (初級)	1前	2						兼7 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (中級)	1前	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (上級)	1前	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (初級)	1前	2						兼8 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (中級)	1前	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (上級)	1前	2						兼3 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (初級)	1後	2						兼7 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (初級)	1後	2						兼9 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		Integrated A (国際共通語としての英語)	2前	2			1		
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 1	2後	2						兼2 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 2	3前	2						兼41 兼22 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated C (キャリア英語)	3前	2						兼41 兼22 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
多言語	ドイツ語 I	1前	4						兼5 兼8 兼2 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)

		ドイツ語Ⅱ	1後	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		ドイツ語Ⅲ	2後	2						兼1 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		フランス語Ⅰ	1前	4						兼5 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		フランス語Ⅱ	1後	4						兼3 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		フランス語Ⅲ	2前	2						兼1 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		ロシア語Ⅰ	1前	4						兼1		
		ロシア語Ⅱ	1後	4						兼1		
		中国語Ⅰ	1前	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		中国語Ⅱ	1後	4						兼3 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		朝鮮語Ⅰ	1前	4						兼1		
		朝鮮語Ⅱ	1後	4						兼1		
		日本語A	1前	2						兼2	教育内容充実のため、科目の追加 (29)	
		日本語B	1前	2						兼1	教育内容充実のため、科目の追加 (29)	
専門教育科目 (生命科学コース)	コア科目 学部共通	農学生命科学概論	1前	2		1 2	1 2 4		1	兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		国際食料流通論	1後	2						兼1		
		起業ビジネス論	3前	2							兼1	
	学科共通	基礎生物学A	1前	2							兼3	
		基礎生物学B	1後	2							兼1	
		生体物理化学Ⅰ	1後	2		1	4					教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		生化学Ⅰ	1後	2			1					
		分子生物学Ⅰ	2前	2		1						
		生化学Ⅱ	2前	2		1						
		生物有機化学Ⅰ	2前	2		1						
		細胞生物学Ⅰ	2前	2			1					
		専門英語	2後	2		1	2		1			
		分子生命科学実験Ⅰ	2後	2		2 3	3					教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		分子生命科学実験Ⅱ	3前	2		1	2		2			
		文献講読Ⅰ	3前	2		1	2		1			
		文献講読Ⅱ	3後	2		5 4	7 8		2			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		分子生命科学演習	4前・後	2		5 4	7 8		2			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	卒業研究	3後・4前・後	6		5 4	7 8		2			教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	専門基礎科目	必修科目	化学の基礎A	1前	2			1				
			化学の基礎B	1後	2		1					
細胞生物学Ⅱ			2後	2							兼1	
分子生物学Ⅱ			2後	2			1					
選択必修科目		数学の基礎A	1前	2		1						
		物理学の基礎A	1前	2			1					
		酵素化学	2前	2		1						
		生体物理化学Ⅱ	2前	2			1					
		生物有機化学Ⅱ	2後	2			1					
		分子機能化学	2後	2		1						
微生物化学	2後	2		1	1					教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)		

ス	分子生物学Ⅰ	2前	2		1							
	生化学Ⅱ	2前	2		1							
	生物有機化学Ⅰ	2前	2		1							
	細胞生物学Ⅰ	2前	2			1						
	専門英語	2後	2		1	2			1			
	分子生命科学実験Ⅰ	2後	2		2 3	3						教育効果充実のため、担当教員の変更(29)
	分子生命科学実験Ⅱ	3前	2		1	2			2			
	文献講読Ⅰ	3前	2		1	2			1			
	文献講読Ⅱ	3後	2		5 4	7 8				2		教育効果充実のため、担当教員の変更(28)
	分子生命科学演習	4前・後	2		5 4	7 8				2		教育効果充実のため、担当教員の変更(28)
	卒業研究	3後・4前・後	6		5 4	7 8				2		教育効果充実のため、担当教員の変更(28)
	専門基礎科目	必修科目										
化学の基礎A		1前	2			1						
化学の基礎B		1後	2		1							
酵素化学		2前	2		1							
微生物機能利用学		3前	2			1						
選択必修科目												
数学の基礎A		1前		2		1						
物理学の基礎A		1前		2			1					
生体物理化学Ⅱ		2前		2			1					
微生物生態学		2前		2		1	4					教育効果充実のため、担当教員の変更(28)
分子生物学Ⅱ	2後		2			1						
細胞生物学Ⅱ	2後		2						兼1			
生物有機化学Ⅱ	2後		2				1					
微生物化学	2後		2		4	1					教育効果充実のため、担当教員の変更(29)	
糖鎖工学	2後		2		1							
選択科目												
基礎生物学C	1前		2							兼3		
基礎生物学D	1後		2							兼4		
分子機能化学	2後		2		1							
細胞分子生物学	2後		2			1						
専門科目	選択必修科目											
	生体高分子構造化学	3前		2					1			
	遺伝子工学	3前		2		1						
	天然物分析学	3前		2			1					
	植物病理学	3後		2						兼1		
	食品科学	3後		2						兼1		
	選択科目											
	農場実習	2前		1							兼4	
	食の機能・安全科学	2後		2							兼6 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加(29)
	海外研修入門	2通		1			1					
インターンシップ	3前		1		1							
生物情報科学	3前		2				1					
天然物化学	3前		2				1					
植物生理学A	3前		2						兼1			
食品分析学	3前		2						兼1			
動物生理学	3前		2						兼1			
作物生理学	3前		2						兼1			
循環土壌学	3前		2						兼1			
作物バイオテクノロジー	3前		2						兼1			
植物病原学	3前		2						兼1			
基礎統計学	3前		2				1					
食品衛生学	3前		2						兼1			
食品保健機能学	3後		2						兼1			
コンピュータ分子設計学	3後		2		1							

基礎土壌学	3後	2					兼1
家畜生理学	3後	2					兼1
食品保蔵学	3後	2					兼1
免疫生物学	3後	2			1		
国際作物生産論	3後	2					兼1
国際有機資源論	3後	2					兼4
菌学	4前	2					兼1
植物環境応答学Ⅰ	4前	2					兼1
植物環境応答学Ⅱ	4前	2					兼1
保全生態学	4前	2					兼1
食品製造学	4前	2					兼1
国際食品マーケティング論	4前	2					兼1
国際フードビジネス論	4後	2					兼1
森林生態学	4後	2					兼2
食品栄養学	4後	2					兼1
水圏資源管理学	4後	2					兼1
栽培土壌学	4後	2					兼1
植物生理学B	4後	2					兼1

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

生命科学コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
25	130	0	155	25	130 128 0	0	155 153 0	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

応用生命コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
25	131	0	156	25	131 129 0	0	156 154 0	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	グローバルヘルス	2	1後	一般	選択	2年次以上のグローバル科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講。代替措置無。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	キャリア形成の発展A	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
2	キャリア形成の発展B	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
3	キャリア形成の発展C	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「グローバルヘルス」は、2年次以上が受講する21世紀教育科目（平成27年度までの入学者を対象とした旧教養教育科目）を優先して開講したため、後期に教員を配置することが出来ず、未開講となった。ただし、選択科目であり、グローバル科目が他にも多数開講されること、平成29年度は開講予定で希望すれば受講出来ることから、学生への影響はない。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みである。</p> <p>COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施に伴い、キャリア教育科目全体の教育内容を、多様なプログラムを含む、より充実したカリキュラムとするため、「キャリア形成の発展A」、「キャリア形成の発展B」、「キャリア形成の発展C」を廃止し、新たに「キャリア形成の発展」を追加する等の見直しを行った。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みであることから、影響はない。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

生命科学コース				
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{4}{155}$	=	2.58
設置時の計画の授業科目数の計(A)				
応用生命コース				
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{4}{156}$	=	2.56
設置時の計画の授業科目数の計(A)				

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	76,254 m ²	0 m ²	0 m ²	76,254 m ²				
	運動場用地	82,910 m ²	0 m ²	0 m ²	82,910 m ²				
	小 計	159,164 m ²	0 m ²	0 m ²	159,164 m ²				
	そ の 他	169,525 m ²	0 m ²	0 m ²	169,525 m ²				
	合 計	328,689 m ²	0 m ²	0 m ²	328,689 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		166,219 m ² (167,762 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	166,219 m ² (167,762 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		99 室	108 室	455 室	11 室 (補助職員 0人)	7 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		農学生命科学部 分子生命科学科			13 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
		冊	種	[うち外国書]					点
		819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
	計	819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		7,680 m ²		626 席		867,806 冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,394 m ²		野球場 (2面) 弓道場 (140m ²)		武道場 (883m ²) テニスコート (8面)			
		1,457 m ²		プール (50m) 馬房 (196m ²)		サッカー・ラグビー場 (2面) 400mトラック			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	弘前大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
《AC対象学部等》 【学部】									
人文社会科学部									
文化創生課程	4	110	0	220	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
社会経営課程	4	155	0	310	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	同上	
理工学部									
数物科学科	4	78	3年次 2	156	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
物質創成化学科	4	52	3年次 1	196	学士 (理工学)	1.01	平成18年度	同上	平成28年度入学定員増(6人)
地球環境防災学科	4	65	3年次 2	130	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
電子情報工学科	4	55	3年次 2	226	学士 (理工学)	1.02	平成18年度	同上	平成28年度入学定員減(△3人)
機械科学科	4	80	3年次 2	160	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	60	学士 (理工学)	1.03	平成28年度	同上	
農学生命科学部									
生物学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
分子生命科学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.00	平成20年度	同上	
食料資源学科	4	55	0	110	学士 (農学生命科学)	1.00	平成28年度	同上	
国際園芸農学科	4	50	0	100	学士 (農学生命科学)	1.01	平成28年度	同上	
地域環境工学科	4	30	0	120	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	同上	
【大学院】									
教育学研究科 (専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	16	0	16	教職修士 (専門職)	1.12	平成29年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
《その他の学部等》 【学部】									
人文学部									
人間文化課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度より学生募集停止
現代社会課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
経済経営課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	150	0	590	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度入学定員増(5人)

養護教諭養成課程	4	20	0	90	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	同上	平成28年度入学定員減(△5人)
生涯教育課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成12年度	同上	平成28年度より学生募集停止
医学部									
医学科	6	112	2年次 20	760	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	青森県弘前市大字在府町5番地	
保健学科	4	200	3年次 30	860	学士 (看護学又は保健学)	1.00	平成12年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
理工学部									
数理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	平成28年度より学生募集停止
物理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
地球環境学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
農学生命科学部									
生物資源学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	平成28年度より学生募集停止
園芸農学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	
【大学院】									
人文社会科学研究科									
(修士課程)									
文化科学専攻	2	10	0	20	修士 (人文社会科学)	0.90	平成11年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
応用社会科学専攻	2	6	0	12	修士 (人文社会科学)	0.66	平成11年度	同上	
教育学研究科									
(修士課程)									
学校教育専攻	2	16	0	22	修士 (教育学)	1.27	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度入学定員増(10人)
教科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成14年度	同上	
医学研究科									
(博士課程)									
医科学専攻	4	60	0	220	博士 (医学)	0.95	平成16年度	青森県弘前市大字在府町5番地	平成28年度入学定員増(10人)
保健学研究科									
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	30	0	60	修士 (看護学又は保健学)	1.13	平成19年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	12	0	33	博士 (保健学)	1.00	平成19年度	同上	平成28年度入学定員増(3人)
理工学研究科									
(博士前期課程)									

理工学専攻 (博士後期課程)	2	120	0	240	修士 (理工学)	0.91	平成22年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
機能創成科学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.62	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
安全システム工学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.87	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
農学生命科学研究科 (修士課程)									
農学生命科学専攻	2	60	0	120	修士 (農学生命科学)	0.77	平成24年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
地域社会研究科 (博士課程)									
地域社会専攻	3	6	0	18	博士 (学術)	1.44	平成14年度	青森県弘前市大字文京町1番地	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学生命科学部 分子生命科学科>

(1) 担当教員表

<学部共通教養教育科目>

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
4	8	0	2	14	4	7	0	2	13	5	7	0	2	14
(4)	(7)	(0)	(2)	(13)						[1]	[△1]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入すると [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計（A）					後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計（C）					後任補充状況の集計（D）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年4月)	【人文社会科学部】 実習科目が、施設見学や裁判傍聴などの感想文を書かせる類の単なる社会科見学とならないよう、しっかりした実施計画の具体化を図ることが望ましい。	要望意見 実習科目について、「地域行政実習」及び「地域司法実習」を含めて、教育成果の検証等にまでふみこんだ入念な実施計画を事前に作成し、計画に沿って実施している。(29)	
設 置 時 (平成28年4月)	【理工学部】 「数物科学科」の2年次コース選択において、学生に対する適切なオリエンテーションを行い、学生に各コースの特色を理解させた上で、各コースの履修生を教育指導体制等を踏まえた適切な数とすることが望ましい。	要望意見 数物科学科の2年次コース選択において、学生が各コースの特色や履修内容を理解できるようオリエンテーションを行った。その後、希望調査の結果に基づき、教員数や実験設備等の教育指導体制の観点から適切な人数になるよう調整し、各コースに所属した。(29)	
設 置 時 (平成28年4月)	【農学生命科学部】 1. 食料資源学科について、食料バイオテクノロジーコースが含まれており、既存の分子生命科学科との区別がつきにくい。分子生命科学科の説明にも、「新規食材の発掘と開発や発酵による食品の開発等の知識を持った人材育成の強化を図る」と書かれており、食料資源学科との異同が分りにくいため、適切に説明することが望ましい。	要望意見 1. 要望意見を踏まえ、分子生命科学科の説明を「新規機能性食材の発掘と開発や、発酵による有用物質生産等の知識を持った人材育成の強化を図る。」へ修正し、設置報告書を提出した。	
	2. 食料資源学科の3つのコースのカリキュラム上の違いが明確ではないため、コースごとの教育課程編成の特色及びその違いを明確に説明することが望ましい。	要望意見 2. 要望意見を踏まえ、各コースの特色を記載し、それに合わせて履修モデルを修正し、設置報告書を提出した。	
	3. コア科目の「国際農業論」は、流通・貿易に焦点を置いているので、例えば、「国際食料流通論」等を含め、科目名称に再検討することが望ましい。	要望意見 3. 要望意見を踏まえ、「国際農業論」から「国際食料流通論」へ科目名を変更し、設置報告書を提出した。	
	4. 多言語科目は、その多くが半期で4単位を配当しているが、週に2コマ開講するとすれば、専門科目の数が多めに設定されていることを考慮すると、どのような時間割編成になるのが懸念されるため、学生が希望する履修ができるよう時間割編成に配慮することが望ましい。	要望意見 4. 学生が希望する教養科目（多言語科目等）の履修が可能となるように、専門科目の時間割編成において配慮している。また、新入生ガイダンスや履修相談において、適切な指導を行っている。(29)	
	【教育学研究科教職実践専攻】 1. 設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに教育委員会等と連携を図り、理論と実践を融合し、高度な実践力・応用力を備えた教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、教育目標と、その評価の基準・方法の明確化を図りつつ、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画に沿って準備を進めた。 平成28年度は、教職大学院専任教員（予定）及び事務方による教職大学院準備室会議を4月以降、原則、週1回開催し、設置の趣旨・目的の確認から始め、各項目の具体化に向けて協議を重ね、設置の準備に当たった。 また、専任教員（予定）4名が、6月に山梨大学教職大学院の授業及び実習を視察し、開校時への準備を進めた。さらに、教職大学院協会の研究集会や各教職大学院で開催されるフォーラムに専任教員（予定）6名が分担して参加し、情報収集を行った。	

<p>設置時 (平成29年4月)</p>		<p>留意事項</p> <p>平成29年度に就任予定である8名の専任教員とは、教育学部長と教職大学院準備室長が個別に1～2回面談を行い、設置の趣旨・目的の共有を図った。</p> <p>教育委員会との協議については、青森県教育委員会とは、青森県教育委員会教職大学院担当者及び青森県教育センター担当者と教職大学院準備室長及び準備室県教委担当者が、4月から月1回程度会議を行い、教育内容及び実習等の連携協力について協議を重ね、開設時に授業や実習等がスムーズに進むよう準備を重ねた。また弘前市教育委員会とは、実習担当教員(予定)が弘前市教育委員会に月1回程度出向き、関係者に実習についての説明と連携協力についての具体策を協議した。さらに、実習担当教員(予定)が連携協力校に出向き、開校時に実習が滞りなく行える様に調整を行った。</p> <p>平成29年度に入り、専任教員の会議である大学院教育学研究科教職実践専攻会議を6回及びFD活動を7回開催し、授業、実習等のポートフォリオの形式と評価、教育実践研究科目の実施方法、教職大学院の運営等について協議を行った。(29)</p>	
	<p>2. ミドルリーダー養成コースの履修モデルについて、学生が自ら高めたい分野・領域に応じた推奨科目が示されているが、学生に自らがどのような力をつけたいか考えさせるとともに、より効果的な学修を实践するため、大学の推奨科目の履修を促す履修指導を行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>2. 入学後に開かれるガイダンスにおいて、授業科目の概要の説明を行うとともに、個別に履修相談を行う時間を設け、教務担当教員が各学生の学校現場での現在の役割や学生自身のキャリア形成計画及び研究課題意識を聞き取った上で、選択すべき授業科目を履修するよう指導を行った。(29)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

＜農学生命科学部 分子生命科学科＞

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>①農学生命科学部自己評価委員会</p> <p>②農学生命科学部教育改善委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>①年間4回程度（委員：各学科・センターから計6名）</p> <p>②年間1回程度（委員：教育担当運営会議委員1名及び各学科・センターから6名の計7名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>それぞれの委員会申し合わせに定めるところによる。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容(教員資質向上にかかるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生及び教員へのアンケート（学部授業実施状況等，教育評価）分析結果報告会 ・ FD講演会（AO入試Q&A） ・ FD講演会（教育改善の取組事例） <p>b 実施方法</p> <p>自己評価委員会を中心に、学部卒業生及び教員へのアンケートを実施し、項目別に結果分析・考察をしたのちに報告会を開催する予定である。その後、各学科や教育改善委員会からのコメントを収集し、教育改善に向けたアンケート調査報告書を作成し公開する。また、教育改善委員会を中心に、学部FD講演会を実施する予定である。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>年間4回程度開催予定</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>アンケート分析は毎年実施しているため、経年的な教員の授業改善状況が把握でき、学科別での状況も分かる。各教員は、学生の授業アンケート結果を参考に授業改善に取り組んでおり、学科の教育目的・目標に沿った授業シラバスを作り、講義を行っている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>卒業時（1-2月）に、学部での学修期間に対する授業評価アンケートを実施予定</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>アンケート結果を報告書として、学部ホームページ上に公開予定</p>
--

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するように計画通りに実施している。今後、更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

学内検討中

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(29年 5月 30日)

○弘前大学農学生命科学部自己評価委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、本学部における教育研究活動の向上を目的として、自ら点検及び評価を行うため、弘前大学農学生命科学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 弘前大学農学生命科学部自己点検項目表（以下「項目表」という。）に基づき、自己点検の範囲を定め、自己評価の実施計画を作成し、教授会に提案する。
- (2) 自己点検を実施し、その結果を取りまとめる。
- (3) 項目表中の学部全体を対象とする項目については本委員会が自己点検・評価を行う。
- (4) 自己点検・自己評価の結果及び改善すべき事項について教授会に報告する。
- (5) 自己点検・自己評価の結果について教授会の議を経て、公表する。

(組織)

第3条 委員会は、本学部各学科及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センターから選出された専任担当教員（弘前大学農学生命科学部長及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター長を除く）各1名で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年半とし、再任を認めない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員の改選は2年ごとに事業年度の開始に合わせて行い、第1項の任期における最後の半年間は新旧委員が重複し、旧委員は「教育改善に向けたアンケート調査報告書」の作成にのみ従事する。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって決める。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長の任期は2年とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員の3名以上の出席をもって成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(兼務)

第8条 委員は、弘前大学諸規程に定められた次の室員を兼ねる。

- (1) 評価室員

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、弘前大学農学生命科学部総務グループ総務担当において処理する。

(その他)

第10条 この申合せに定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成16年10月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成22年10月20日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

○弘前大学農学生命科学部教育改善委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、弘前大学農学生命科学部教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育改善のための企画、調査、研究等に関すること。
- (2) 教育活動の評価に関すること。
- (3) 学生による授業評価に関すること。
- (4) ファカルティ・デベロップメントに関すること。
- (5) その他教育改善に関する事項。

(組織)

第3条 委員会は、弘前大学農学生命科学部運営会議学務担当委員（以下「運営会議委員」という。）及び本学部各学科と弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（以下「共生センター」という。）から選出された各1名の専任担当教員により構成される。

(委員の任期)

第4条 本学部各学科及び共生センターから選出された委員の任期は2年とし、半数交替制とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 運営会議委員の本委員会委員としての任期は、弘前大学農学生命科学部運営会議委員の任期に関わる申合せによる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、運営会議委員が委員長となる。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第6条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(申合せの改廃)

第7条 この申合せの改廃については、教授会の議を経て弘前大学農学生命科学部長が行う。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成21年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成27年4月1日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 弘前大学

(2) 大学名

弘前大学

(3) 大学の位置

〒036-8560

青森県弘前市大字文京町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	サトウ ケイ 佐藤 敬 平成24年2月		
学部長	ハシモト マサル 橋本 勝 平成28年4月	マツザキ マサトシ 松崎 正敏 平成29年5月	辞任のため変更(29) ※事務取扱
学科長	トバ タカヒロ 戸羽 隆宏 平成28年4月	サノ テルオ 佐野 輝男 平成29年4月	任期満了のため変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農学生命科学部 食料資源学科 学士(農学生命科学)	理学関係 農学関係	4年	55人	— 年次人	220人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	55 () [若干名]	—	55 () [若干名]	—	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	1.00 倍	
志願者数	233 () () [4] [—]	—	236 () () [2] [—]	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
受験者数	158 () () [4] [—]	—	153 () () [2] [—]	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
合格者数	60 () () [—] [—]	—	58 () () [1] [—]	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
B 入学者数	55 () () [—] [—]	—	56 () () [1] [—]	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.01									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	55 [-] (-)	- [-] (-)	56 [1] (-)	- [-] (-)							
2年次	/		55 [-] (-)	- [-] (-)							
3年次			/								
4年次	/										
計			55 [-] (-)		111 [1] (-)						

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	55 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	56 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	111 人	0 人					0.00 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らしてはいけません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<農学生命科学部 食料資源学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	導入科目 基礎ゼミナール	1前	2			8 24 25	14 28 31		1 12 10		当該年度担当の教員を計上 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	スキル 地域学ゼミナール	1後	2			5 24 25	3 28 31		1 12 10		兼46 兼48 兼46 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
	ローカル科目	青森の行政	1前		2							兼1 兼2 兼4 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の経済・産業	1前		2							兼5 兼3 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		青森の文化	1前		2							兼10 兼7 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の歴史	1前		2							兼3 兼9 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の芸術	1前		2							兼3 兼7 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の民俗・芸能	1前		2							兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		青森の自然	1前		2		7 4 2	9 4		1		兼19 兼22 兼16 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2			4				兼4 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
国際地域		1後		2							兼6 兼8 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
比較文化		1後		2							兼4 兼3 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
世界の芸術・芸能		1後		2							兼3 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
地球環境		1後		2		4 +	2 3				兼5 兼3 兼1 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
グローバルヘルス		1後 未開講 1後		2							兼5 兼50 通常開講 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 2年以上の受講科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講 (28)	
学部越境型地域志向科目	日本	1後		2							兼9 兼8 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
	青森の多様性と活性化	2前～4後		2		1 3	4				兼29 兼24 兼62 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	青森の食と産業化	2前～4後		2		2	5				兼2 兼6 兼8 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
	市民参加と地域づくり	2前～4後		2							兼8 兼14 兼10 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
	青森エクスカージョン	2前～4後		2			2				兼15 兼12 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
地域プロジェクト演習	2前～4後		2							兼18 兼17 兼23 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)		

社会・文化	暮らし・文化	1前・後	2						兼5 兼3 兼2	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	歴史・地理	1前・後	2	1					兼6 兼5	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	思想	1前・後	2						兼3 兼4 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	言語学の世界	1前・後	2						兼2 兼3 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	文学	1前・後	2						兼3 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	芸術	1前・後	2						兼16 兼17 兼22	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	政治経済・社会	1前・後	2						兼12 兼18 兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	法と社会A	1前・後	2						兼1 兼2 兼4	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	法と社会B	1前・後	2						兼3 兼2 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
自然・科学	環境と生活	1前・後	2	1	1				兼34 兼34 兼17	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	工学の世界	1前・後	2	-4	4		1		兼4 兼6 兼8	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	農学の世界	1前・後	2	2	2		1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	数学の世界	1前・後	2	4					兼1 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	物理学の世界	1前・後	2			1			兼8 兼9 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	化学の世界	1前・後	2	2	2				兼7 兼11 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	生物学の世界	1前・後	2	7	7				兼10 兼12 兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報処理入門A	1前・後	2						兼3 兼4 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	情報処理入門B	1前・後	2	1	1				兼14 兼11 兼21	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
人間・生命	人間の尊厳	1前・後	2						兼5 兼6 兼7	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	人を育む営み	1前・後	2						兼19 兼23 兼17	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	心理学の世界	1前・後	2						兼9 兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	メンタルヘルス	1前・後	2						兼8 兼5 兼14	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	生活と健康	1前・後	2	1					兼8 兼18	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	運動と健康A	1前・後	2						兼15 兼16 兼13	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	運動と健康B	1前・後	2						兼3 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)

	医学・医療の世界	1前・後	2			2			兼50 兼60 兼48 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報と健康・医学	1前・後	2						兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
キャリア教育	キャリア形成の基礎	1後	1 2						兼4 兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる単位数及び教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	キャリア形成の発展	2前	3						兼5 兼4 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目追加 (28)
	キャリア形成の発展A	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展B	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展C	3前	2						兼3 COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリアデザイン	2前～4後	2			1 2	4		兼6 兼10 兼2 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
英語	Listening (初級)	1前	2						兼7 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (中級)	1前	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (上級)	1前	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (初級)	1前	2						兼8 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (中級)	1前	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (上級)	1前	2						兼3 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (初級)	1後	2						兼7 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (初級)	1後	2						兼9 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		Integrated A (国際共通語としての英語)	2前	2			1		
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 1	2後	2						兼2 兼41 兼22 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 2	3前	2						兼41 兼22 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated C (キャリア英語)	3前	2						兼41 兼22 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
多言語	ドイツ語 I	1前	4						兼5 兼8 兼2 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)

		ドイツ語Ⅱ	1後	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		ドイツ語Ⅲ	2後	2						兼1 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		フランス語Ⅰ	1前	4						兼5 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		フランス語Ⅱ	1後	4						兼3 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		フランス語Ⅲ	2前	2						兼1 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		ロシア語Ⅰ	1前	4						兼1		
		ロシア語Ⅱ	1後	4						兼1		
		中国語Ⅰ	1前	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		中国語Ⅱ	1後	4						兼3 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
		朝鮮語Ⅰ	1前	4						兼1		
		朝鮮語Ⅱ	1後	4						兼1		
		日本語A	1前	2						兼2	教育内容充実のため、科目の追加 (29)	
		日本語B	1前	2						兼1	教育内容充実のため、科目の追加 (29)	
専門教育科目 (食料バイオテクノロジーコース)	学部共通	農学生命科学概論	1前	2			2 3 2	4		1	兼12 兼1 兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		国際食料流通論	1後	2								
		起業ビジネス論	3前	2								
	学科共通	作物育種学Ⅰ	1前	2			1					
		基礎土壌学	1後	2			1					
		食品栄養学	1後	2					1		1	担当教員昇任のため、職階の変更 (29)
		微生物バイオテクノロジーⅠ	2前	2					1			
		応用昆虫学	2前	2			1				1	兼1 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		食品分析学	2前	2			1					
		バイオテクノロジー実験	2前	2			2 3	2			1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		生産環境学実験	2前	2			2 3	2			1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		食品学実験	2前	2			3	1			1	教育効果充実のため、担当教員の変更・担当教員昇任のため、職階の変更 (29)
		食料資源学概論	2後	2			6 11	5 7			2	教育効果充実のため、担当教員の変更・担当教員昇任のため、職階の変更 (29)
		食の機能・安全科学	2後	2			1	1				兼4 兼2 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		作物ゲノム学Ⅰ	2後	2			1					
		植物病理学	2後	2				1				
		食品科学	2後	2			1					
	食料資源学専門実験	3前	2			11	7			2		
	卒業研究	3後・4前・後	6			11	7			2		
	専門基礎科目	必修科目	生物学の基礎A	1前	2		1	1				
化学の基礎C			1前	2		1				1		
生物学の基礎B			1後	2		1	1					
化学の基礎D			1後	2		1	1			1	担当教員昇任のため、職階の変更 (29)	
専門英語			2後	2		4	4			1		
選択科目	データ解析の基礎	1前	2		1	2			1		教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
	物理学の基礎A	1前	2							兼1		
	物理学の基礎B	1後	2							兼1		
	農場実習	2前	1							兼4		

	生物有機化学Ⅰ	2前		2						兼1
	食品物性学	2後		2		1				
	食品毒性学	2後		2		1				
	分子栄養学	2後		2			1			
	生化学Ⅰ	2後		2						兼1
	海外研修入門	2通		1		1				
専 門 科 目	作物生理学	3前	2				1			
	作物バイオテクノロジー	3前	2			1				
	食料資源学演習Ⅰ（食料バイオテクノロジー）	3前・後	2			3	2			
	食料資源学演習Ⅱ（食料バイオテクノロジー）	4前・後	2			3	2			
選 択 科 目	作物学汎論	2前		2						兼1
	昆虫生物学	2後		2						兼1
	生物有機化学Ⅱ	2後		2						兼1
	微生物化学	2後		2						兼1
	細胞分子生物学	2後		2						兼1
	インターンシップ	3前		1		1				
	生化学Ⅱ	3前		2						兼1
	酵素化学	3前		2						兼1
	作物ゲノム学Ⅱ	3前		2		1				
	菌学	3前		2				1		
	栽培環境学	3前		2				1		
	循環土壌学	3前		2		1				
	実験動物学	3前		2				1		
	品質管理論	3前		2		1				
	食品官能評価法	3前		2		1				
	生物統計学	3前		2						兼1
	分子生物学Ⅰ	3前		2						兼1
	天然物化学	3前		2						兼1
	動物生理学	3前		2						兼1
	畜産学汎論	3前		2						兼2
	作物生態学	3前		2						兼1
	食品衛生学	3前		2		1				
	食品製造学	3前		2		1				
	植物病原学	3前		2		1				
	昆虫生理学	3前		2					1	
	生物学専門実験	3前		2		2	2			兼7
	食品保蔵学	3後		2				1		
	栽培土壌学	3後		2				1		
	作物育種学Ⅱ	3後		2		1				
	食品安全生理学	3後		2		1				
	食品保健機能学	3後		2					1	
	食品機能性成分分析学	3後		2		1				
	農業気象学	3後		2						兼1
	蔬菜園芸学Ⅰ	3後		2						兼1
	作物栄養学	3後		2				1		
	微生物バイオテクノロジーⅡ	3後		2				1		
作物病害管理学	3後		2		1					
昆虫バイオテクノロジー	3後		2		1					
食品安全管理学	3後		2				1			
食品冷凍冷蔵殺菌学	3後		2				1			
食産業情報論	3後		2				1			
植物発生形態学	4前		2						兼1	
植物生理学A	4前		2						兼1	
保全生態学	4前		2						兼1	
植物環境応答学Ⅰ	4前		2						兼1	

		遺伝子工学	4前		2							兼1	
		生物情報科学	4前		2							兼1	
		微生物生態学	4前		2							兼1	
		生体高分子構造化学	4前		2							兼1	
		果樹園芸学	4前		2							兼2	
		天然物分析学	4前		2							兼1	
		国際食品マーケティング論	4前		2							兼1	
		分子生物学Ⅱ	4後		2							兼1	
		糖鎖工学	4後		2							兼1	
		植物生態学	4後		2							兼1	
		分子進化学	4後		2							兼1	
		花卉園芸学	4後		2							兼1	
		果実利用学	4後		2							兼1	
		家畜生理学	4後		2							兼1	
		国際作物生産論	4後		2							兼1	
		国際有機資源論	4後		2							兼4	
		国際フードビジネス論	4後		2							兼1	
専門教育科目 (食品科学コース)	コア科目	農学生命科学概論	1前	2			2 3					兼12	
		国際食料流通論	1後	2			2	4		1		兼1	
		起業ビジネス論	3前	2									兼1
		作物育種学Ⅰ	1前	2			1						
	学科共通	基礎土壌学	1後	2			1						
		食品栄養学	1後	2					1		4		
		微生物バイオテクノロジーⅠ	2前	2					1				
		応用昆虫学	2前	2			4						兼1
		食品分析学	2前	2			1						
		バイオテクノロジー実験	2前	2			2 3	2			1		
		生産環境学実験	2前	2			2 3	2			1		
		食品学実験	2前	2			3	1			4		
		食料資源学概論	2後	2			6 11	5 7			2		
		作物ゲノム学Ⅰ	2後	2			1						
		食の機能・安全科学	2後	2			1	1					兼4 兼2
		植物病理学	2後	2				1					
		食品科学	2後	2			1						
		食料資源学専門実験	3前	2			11	7			2		
		卒業研究	3後・4前・後	6			11	7			2		
		専門基礎科目	必修科目	生物学の基礎A	1前	2		1	1				
化学の基礎C	1前			2		1				1			
生物学の基礎B	1後			2		1	1						
化学の基礎D	1後			2		1	1			4			
専門英語	2後			2		4	4			1			
選択科目	データ解析の基礎		1前		2		1	2		1			
	物理学の基礎A	1前		2							兼1		
	物理学の基礎B	1後		2							兼1		
	農場実習	2前		1							兼4		
	生物有機化学Ⅰ	2前		2							兼1		
	食品物性学	2後		2		1							

		生物情報科学	4前		2							兼1		
		微生物生態学	4前		2							兼1		
		生体高分子構造化学	4前		2							兼1		
		果樹園芸学	4前		2							兼2		
		天然物分析学	4前		2							兼1		
		国際食品マーケティング論	4前		2							兼1		
		分子生物学Ⅱ	4後		2							兼1		
		糖鎖工学	4後		2							兼1		
		植物生態学	4後		2							兼1		
		分子進化学	4後		2							兼1		
		花卉園芸学	4後		2							兼1		
		果実利用学	4後		2							兼1		
		家畜生理学	4後		2							兼1		
		国際作物生産論	4後		2							兼1		
		国際有機資源論	4後		2							兼4		
		国際フードビジネス論	4後		2							兼1		
専門教育科目 (食料生産環境コース)	コア科目 学部共通	農学生命科学概論	1前	2			2 3 2	4		1		兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
		国際食料流通論	1後	2								兼1		
		起業ビジネス論	3前	2									兼1	
	学科共通	作物育種学Ⅰ	1前	2			1							
		基礎土壌学	1後	2			1							
		食品栄養学	1後	2					1		4			担当教員昇任のため、職階の変更 (29)
		微生物バイオテクノロジーⅠ	2前	2					1					
		応用昆虫学	2前	2			4						兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		食品分析学	2前	2			1							
		バイオテクノロジー実験	2前	2			2 3	2			1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		生産環境学実験	2前	2			2 3	2			1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		食品学実験	2前	2			3	1			4			教育効果充実のため、担当教員の変更・担当教員昇任のため、職階の変更 (29)
		食料資源学概論	2後	2			6 4	5 7			2			教育効果充実のため、担当教員の変更・担当教員昇任のため、職階の変更 (29)
		食の機能・安全科学	2後	2			1	1					兼4 兼2	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		作物ゲノム学Ⅰ	2後	2			1							
	植物病理学	2後	2				1							
	食品科学	2後	2			1								
	食料資源学専門実験	3前	2			11	7			2				
	卒業研究	3後・4前・後	6			11	7			2				
	専門基礎科目	必修科目	生物学の基礎A	1前	2			1	1			1		
化学の基礎C			1前	2			1				1			
生物学の基礎B			1後	2			1	1						
化学の基礎D			1後	2			1	1			4		担当教員昇任のため、職階の変更 (29)	
専門英語			2後	2			4	4			1			
選択科目		データ解析の基礎	1前		2			1	2		1			教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		物理学の基礎A	1前		2								兼1	
		物理学の基礎B	1後		2								兼1	
		農場実習	2前		1								兼4	
		生物有機化学Ⅰ	2前		2								兼1	
食品物性学	2後		2			1								
食品毒性学	2後		2			1								
分子栄養学	2後		2				1							
生化学Ⅰ	2後		2									兼1		

	海外研修入門	2通		1		1						
専 門 科 目	必修科目	植物病原学	3前	2		1						
		昆虫生理学	3前	2					1			
		栽培土壌学	3後	2				1				
		食料資源学演習Ⅰ（食料生産環境）	3前・後	2		3	2		1			
		食料資源学演習Ⅱ（食料生産環境）	4前・後	2		3	2		1			
選 択 科 目		作物学汎論	2前		2							兼1
		昆虫生物学	2後		2							兼1
		生物有機化学Ⅱ	2後		2							兼1
		微生物化学	2後		2							兼1
		細胞分子生物学	2後		2							兼1
		インターンシップ	3前		1		1					
		生化学Ⅱ	3前		2							兼1
		酵素化学	3前		2							兼1
		作物ゲノム学Ⅱ	3前		2		1					
		菌学	3前		2				1			
		栽培環境学	3前		2				1			
		循環土壌学	3前		2		1					
		実験動物学	3前		2				1			
		品質管理論	3前		2		1					
		食品官能評価法	3前		2		1					
		生物統計学	3前		2							兼1
		分子生物学Ⅰ	3前		2							兼1
		天然物化学	3前		2							兼1
		動物生理学	3前		2							兼1
		畜産学汎論	3前		2							兼2
		作物生態学	3前		2							兼1
		食品衛生学	3前		2		1					
		食品製造学	3前		2		1					
		作物生理学	3前		2				1			
		作物バイオテクノロジー	3前		2		1					
		生物学専門実験	3前		2		2	2				兼7
		食品保蔵学	3後		2				1			
		作物育種学Ⅱ	3後		2		1					
		食品安全生理学	3後		2		1					
		食品保健機能学	3後		2					1		
		食品機能性成分分析学	3後		2		1					
		農業気象学	3後		2							兼1
		蔬菜園芸学Ⅰ	3後		2							兼1
		作物栄養学	3後		2				1			
		微生物バイオテクノロジーⅡ	3後		2				1			
		作物病害管理学	3後		2		1					
	昆虫バイオテクノロジー	3後		2		1						
	食品安全管理学	3後		2				1				
	食品冷凍冷蔵殺菌学	3後		2				1				
	食産業情報論	3後		2				1				
	植物発生形態学	4前		2							兼1	
	植物生理学A	4前		2							兼1	
	保全生態学	4前		2							兼1	
	植物環境応答学Ⅰ	4前		2							兼1	
	遺伝子工学	4前		2							兼1	
	生物情報科学	4前		2							兼1	
	微生物生態学	4前		2							兼1	
	生体高分子構造化学	4前		2							兼1	
	果樹園芸学	4前		2							兼2	
	天然物分析学	4前		2							兼1	
	国際食品マーケティング論	4前		2							兼1	
	分子生物学Ⅱ	4後		2							兼1	

	糖鎖工学	4後	2							兼1
	植物生態学	4後	2							兼1
	分子進化学	4後	2							兼1
	花卉園芸学	4後	2							兼1
	果実利用学	4後	2							兼1
	家畜生理学	4後	2							兼1
	国際作物生産論	4後	2							兼1
	国際有機資源論	4後	2							兼4
	国際フードビジネス論	4後	2							兼1

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

食料バイオテクノロジーコース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
31	150	0	181	31	150 148 0	0	181 179 0	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

食品科学コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
33	149	0	182	33	149 147 0	0	182 180 0	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

食料生産環境コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
32	149	0	181	32	149 147 0	0	181 179 0	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	グローバルヘルス	2	1後	一般	選択	2年次以上のグローバル科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講。代替措置無。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	キャリア形成の発展A	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
2	キャリア形成の発展B	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
3	キャリア形成の発展C	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「グローバルヘルス」は、2年次以上が受講する21世紀教育科目（平成27年度までの入学者を対象とした旧教養教育科目）を優先して開講したため、後期に教員を配置することが出来ず、未開講となった。ただし、選択科目であり、グローバル科目が他にも多数開講されること、平成29年度は開講予定で希望すれば受講出来ることから、学生への影響はない。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みである。</p> <p>COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施に伴い、キャリア教育科目全体の教育内容を、多様なプログラムを含む、より充実したカリキュラムとするため、「キャリア形成の発展A」、「キャリア形成の発展B」、「キャリア形成の発展C」を廃止し、新たに「キャリア形成の発展」を追加する等の見直しを行った。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みであることから、影響はない。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

<p>食料バイオテクノロジーコース</p> <p>未開講科目(3)と廃止科目(4)の計</p>	=	$\frac{4}{181}$	=	2.2
<p>食品科学コース</p> <p>未開講科目(3)と廃止科目(4)の計</p>	=	$\frac{4}{182}$	=	2.19
<p>食料生産環境コース</p> <p>未開講科目(3)と廃止科目(4)の計</p>	=	$\frac{4}{181}$	=	2.2

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	76,254 m ²	0 m ²	0 m ²	76,254 m ²				
	運動場用地	82,910 m ²	0 m ²	0 m ²	82,910 m ²				
	小 計	159,164 m ²	0 m ²	0 m ²	159,164 m ²				
	そ の 他	169,525 m ²	0 m ²	0 m ²	169,525 m ²				
	合 計	328,689 m ²	0 m ²	0 m ²	328,689 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		166,219 m ² (167,762 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	166,219 m ² (167,762 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		99 室	108 室	455 室	11 室 (補助職員 0人)	7 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		農学生命科学部 食料資源学科			14 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
		冊	種	[うち外国書]					点
		819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
	計	819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		7,680 m ²		626 席		867,806 冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,394 m ²		野球場(2面) 弓道場(140m ²)		武道場(883m ²) テニスコート(8面)			
		1,457 m ²		プール(50m) 馬房(196m ²)		サッカー・ラグビー場(2面) 400mトラック			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	弘前大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
《AC対象学部等》 【学部】									
人文社会科学部									
文化創生課程	4	110	0	220	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
社会経営課程	4	155	0	310	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	同上	
理工学部									
数物科学科	4	78	3年次 2	156	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
物質創成化学科	4	52	3年次 1	196	学士 (理工学)	1.01	平成18年度	同上	平成28年度入学定員増(6人)
地球環境防災学科	4	65	3年次 2	130	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
電子情報工学科	4	55	3年次 2	226	学士 (理工学)	1.02	平成18年度	同上	平成28年度入学定員減(△3人)
機械科学科	4	80	3年次 2	160	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	60	学士 (理工学)	1.03	平成28年度	同上	
農学生命科学部									
生物学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
分子生命科学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.00	平成20年度	同上	
食料資源学科	4	55	0	110	学士 (農学生命科学)	1.00	平成28年度	同上	
国際園芸農学科	4	50	0	100	学士 (農学生命科学)	1.01	平成28年度	同上	
地域環境工学科	4	30	0	120	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	同上	
【大学院】									
教育学研究科 (専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	16	0	16	教職修士 (専門職)	1.12	平成29年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
《その他の学部等》 【学部】									
人文学部									
人間文化課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度より学生募集停止
現代社会課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
経済経営課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	150	0	590	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度入学定員増(5人)

養護教諭養成課程	4	20	0	90	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	同上	平成28年度入学定員減(△5人)
生涯教育課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成12年度	同上	平成28年度より学生募集停止
医学部									
医学科	6	112	2年次 20	760	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	青森県弘前市大字在府町5番地	
保健学科	4	200	3年次 30	860	学士 (看護学又は保健学)	1.00	平成12年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
理工学部									
数理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	平成28年度より学生募集停止
物理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
地球環境学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
農学生命科学部									
生物資源学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	平成28年度より学生募集停止
園芸農学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	
【大学院】									
人文社会科学研究科									
(修士課程)									
文化科学専攻	2	10	0	20	修士 (人文社会科学)	0.90	平成11年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
応用社会科学専攻	2	6	0	12	修士 (人文社会科学)	0.66	平成11年度	同上	
教育学研究科									
(修士課程)									
学校教育専攻	2	16	0	22	修士 (教育学)	1.27	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度入学定員増(10人)
教科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成14年度	同上	
医学研究科									
(博士課程)									
医科学専攻	4	60	0	220	博士 (医学)	0.95	平成16年度	青森県弘前市大字在府町5番地	平成28年度入学定員増(10人)
保健学研究科									
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	30	0	60	修士 (看護学又は保健学)	1.13	平成19年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	12	0	33	博士 (保健学)	1.00	平成19年度	同上	平成28年度入学定員増(3人)
理工学研究科									
(博士前期課程)									

理工学専攻 (博士後期課程)	2	120	0	240	修士 (理工学)	0.91	平成22年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
機能創成科学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.62	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
安全システム工学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.87	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
農学生命科学研究科 (修士課程)									
農学生命科学専攻	2	60	0	120	修士 (農学生命科学)	0.77	平成24年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
地域社会研究科 (博士課程)									
地域社会専攻	3	6	0	18	博士 (学術)	1.44	平成14年度	青森県弘前市大字文京町1番地	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学生命科学部 食料資源学科>

(1) 担当教員表

<学部共通教養教育科目>

<專門科目>

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
11	7	0	2	20	7	5	0	2	14	8	9	0	3	20
(5)	(4)	(0)	(2)	(11)						[△3]	[2]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入すると [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計（A）					後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計（C）					後任補充状況の集計（D）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年4月)	【人文社会科学部】 実習科目が、施設見学や裁判傍聴などの感想文を書かせる類の単なる社会科見学とならないよう、しっかりした実施計画の具体化を図ることが望ましい。	要望意見	実習科目について、「地域行政実習」及び「地域司法実習」を含めて、教育成果の検証等にまでふみこんだ入念な実施計画を事前に作成し、計画に沿って実施している。(29)
設 置 時 (平成28年4月)	【理工学部】 「数物科学科」の2年次コース選択において、学生に対する適切なオリエンテーションを行い、学生に各コースの特色を理解させた上で、各コースの履修生を教育指導体制等を踏まえた適切な数とすることが望ましい。	要望意見	数物科学科の2年次コース選択において、学生が各コースの特色や履修内容を理解できるようオリエンテーションを行った。その後、希望調査の結果に基づき、教員数や実験設備等の教育指導体制の観点から適切な人数になるよう調整し、各コースに所属した。(29)
設 置 時 (平成28年4月)	【農学生命科学部】 1. 食料資源学科について、食料バイオテクノロジーコースが含まれており、既存の分子生命科学科との区別がつきにくい。分子生命科学科の説明にも、「新規食材の発掘と開発や発酵による食品の開発等の知識を持った人材育成の強化を図る」と書かれており、食料資源学科との異同が分りにくいため、適切に説明することが望ましい。	要望意見	1. 要望意見を踏まえ、分子生命科学科の説明を「新規機能性食材の発掘と開発や、発酵による有用物質生産等の知識を持った人材育成の強化を図る。」へ修正し、設置報告書を提出した。
	2. 食料資源学科の3つのコースのカリキュラム上の違いが明確ではないため、コースごとの教育課程編成の特色及びその違いを明確に説明することが望ましい。	要望意見	2. 要望意見を踏まえ、各コースの特色を記載し、それに合わせて履修モデルを修正し、設置報告書を提出した。
	3. コア科目の「国際農業論」は、流通・貿易に焦点を置いているので、例えば、「国際食料流通論」等を含め、科目名称に再検討することが望ましい。	要望意見	3. 要望意見を踏まえ、「国際農業論」から「国際食料流通論」へ科目名を変更し、設置報告書を提出した。
	4. 多言語科目は、その多くが半期で4単位を配当しているが、週に2コマ開講するとすれば、専門科目の数が多めに設定されていることを考慮すると、どのような時間割編成になるのが懸念されるため、学生が希望する履修ができるよう時間割編成に配慮することが望ましい。	要望意見	4. 学生が希望する教養科目（多言語科目等）の履修が可能となるように、専門科目の時間割編成において配慮している。また、新入生ガイダンスや履修相談において、適切な指導を行っている。(29)
	【教育学研究科教職実践専攻】 1. 設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに教育委員会等と連携を図り、理論と実践を融合し、高度な実践力・応用力を備えた教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、教育目標と、その評価の基準・方法の明確化を図りつつ、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。		1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画に沿って準備を進めた。 平成28年度は、教職大学院専任教員（予定）及び事務方による教職大学院準備室会議を4月以降、原則、週1回開催し、設置の趣旨・目的の確認から始め、各項目の具体化に向けて協議を重ね、設置の準備に当たった。 また、専任教員（予定）4名が、6月に山梨大学教職大学院の授業及び実習を視察し、開校時への準備を進めた。さらに、教職大学院協会の研究集会や各教職大学院で開催されるフォーラムに専任教員（予定）6名が分担して参加し、情報収集を行った。

<p>設置時 (平成29年4月)</p>		<p>留意事項</p> <p>平成29年度に就任予定である8名の専任教員とは、教育学部長と教職大学院準備室長が個別に1～2回面談を行い、設置の趣旨・目的の共有を図った。</p> <p>教育委員会との協議については、青森県教育委員会とは、青森県教育委員会教職大学院担当者及び青森県教育センター担当者と教職大学院準備室長及び準備室県教委担当者が、4月から月1回程度会議を行い、教育内容及び実習等の連携協力について協議を重ね、開設時に授業や実習等がスムーズに進むよう準備を重ねた。また弘前市教育委員会とは、実習担当教員（予定）が弘前市教育委員会に月1回程度出向き、関係者に実習についての説明と連携協力についての具体策を協議した。さらに、実習担当教員（予定）が連携協力校に出向き、開校時に実習が滞りなく行える様に調整を行った。</p> <p>平成29年度に入り、専任教員の会議である大学院教育学研究科教職実践専攻会議を6回及びFD活動を7回開催し、授業、実習等のポートフォリオの形式と評価、教育実践研究科目の実施方法、教職大学院の運営等について協議を行った。(29)</p>	
	<p>2. ミドルリーダー養成コースの履修モデルについて、学生が自ら高めたい分野・領域に応じた推奨科目が示されているが、学生に自らがどのような力をつけたいか考えさせるとともに、より効果的な学修を实践するため、大学の推奨科目の履修を促す履修指導を行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>2. 入学後に開かれるガイダンスにおいて、授業科目の概要の説明を行うとともに、個別に履修相談を行う時間を設け、教務担当教員が各学生の学校現場での現在の役割や学生自身のキャリア形成計画及び研究課題意識を聞き取った上で、選択すべき授業科目を履修するよう指導を行った。(29)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<農学生命科学部 食料資源学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ①農学生命科学部自己評価委員会
- ②農学生命科学部教育改善委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ①年間4回程度（委員：各学科・センターから計6名）
- ②年間1回程度（委員：教育担当運営会議委員1名及び各学科・センターから6名の計7名）

c 委員会の審議事項等

それぞれの委員会申し合わせに定めるところによる。

② 実施状況

a 実施内容(教員資質向上にかかるもの)

- ・ 卒業生及び教員へのアンケート（学部授業実施状況等、教育評価）分析結果報告会
- ・ FD講演会（AO入試Q&A）
- ・ FD講演会（教育改善の取組事例）

b 実施方法

自己評価委員会を中心に、学部卒業生及び教員へのアンケートを実施し、項目別に結果分析・考察をしたのちに報告会を開催する予定である。その後、各学科や教育改善委員会からのコメントを収集し、教育改善に向けたアンケート調査報告書を作成し公開する。また、教育改善委員会を中心に、学部FD講演会を実施する予定である。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

年間4回程度開催予定

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

アンケート分析は毎年実施しているため、経年的な教員の授業改善状況が把握でき、学科別での状況も分かる。各教員は、学生の授業アンケート結果を参考に授業改善に取り組んでおり、学科の教育目的・目標に沿った授業シラバスを作り、講義を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

卒業時（1-2月）に、学部での学修期間に対する授業評価アンケートを実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を報告書として、学部ホームページ上に公開予定

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するように計画通りに実施している。今後、更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

学内検討中

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(29年 5月 30日)

○弘前大学農学生命科学部自己評価委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、本学部における教育研究活動の向上を目的として、自ら点検及び評価を行うため、弘前大学農学生命科学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 弘前大学農学生命科学部自己点検項目表（以下「項目表」という。）に基づき、自己点検の範囲を定め、自己評価の実施計画を作成し、教授会に提案する。
- (2) 自己点検を実施し、その結果を取りまとめる。
- (3) 項目表中の学部全体を対象とする項目については本委員会が自己点検・評価を行う。
- (4) 自己点検・自己評価の結果及び改善すべき事項について教授会に報告する。
- (5) 自己点検・自己評価の結果について教授会の議を経て、公表する。

(組織)

第3条 委員会は、本学部各学科及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センターから選出された専任担当教員（弘前大学農学生命科学部長及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター長を除く）各1名で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年半とし、再任を認めない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員の改選は2年ごとに事業年度の開始に合わせて行い、第1項の任期における最後の半年間は新旧委員が重複し、旧委員は「教育改善に向けたアンケート調査報告書」の作成にのみ従事する。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって決める。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長の任期は2年とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員の3名以上の出席をもって成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(兼務)

第8条 委員は、弘前大学諸規程に定められた次の室員を兼ねる。

- (1) 評価室員

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、弘前大学農学生命科学部総務グループ総務担当において処理する。

(その他)

第10条 この申合せに定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成16年10月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成22年10月20日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

○弘前大学農学生命科学部教育改善委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、弘前大学農学生命科学部教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育改善のための企画、調査、研究等に関すること。
- (2) 教育活動の評価に関すること。
- (3) 学生による授業評価に関すること。
- (4) ファカルティ・デベロップメントに関すること。
- (5) その他教育改善に関する事項。

(組織)

第3条 委員会は、弘前大学農学生命科学部運営会議学務担当委員（以下「運営会議委員」という。）及び本学部各学科と弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（以下「共生センター」という。）から選出された各1名の専任担当教員により構成される。

(委員の任期)

第4条 本学部各学科及び共生センターから選出された委員の任期は2年とし、半数交替制とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 運営会議委員の本委員会委員としての任期は、弘前大学農学生命科学部運営会議委員の任期に関わる申合せによる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、運営会議委員が委員長となる。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第6条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(申合せの改廃)

第7条 この申合せの改廃については、教授会の議を経て弘前大学農学生命科学部長が行う。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成21年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成27年4月1日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 弘前大学

(2) 大学名

弘前大学

(3) 大学の位置

〒036-8560

青森県弘前市大字文京町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	サトウ ケイ 佐藤 敬 平成24年2月		
学部長	ハシモト マサル 橋本 勝 平成28年4月	マツザキ マサトシ 松崎 正敏 平成29年5月	辞任のため変更(29) ※事務取扱
学科長	イズミヤ マサミ 泉谷 眞実 平成28年4月	アラカワ オサム 荒川 修 平成29年4月	任期満了のため変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農学生命科学部 国際園芸農学科 学士(農学生命科学)	農学関係	4年	50人	— 年次人	200人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	50人 (—) [若干名]	—人	50人 (—) [若干名]	—人	()人 ()	()人 ()	()人 ()	()人 ()	()人 ()	()人 ()	1.01倍	
志願者数	182 (—) [1]	— (—) [—]	179 (—) [1]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	131 (—) [1]	— (—) [—]	97 (—) [1]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	55 (—) [—]	— (—) [—]	53 (—) [1]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	50 (—) [—]	— (—) [—]	51 (—) [1]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.02									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	50 [-] (-)	- [-] (-)	51 [1] (-)	- [-] (-)							平成29年度 2年次 分子生命科学科から転学科 (1人)	
2年次	/		51 [-] (-)	- [-] (-)								
3年次			/									
4年次					/							
計			50 [-] (-)				102 [1] (-)					

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
			平成28年度 入学者	50 人	0 人		
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	51 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	0.00 %	
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人	#DIV/0! %	
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人	#DIV/0! %	
合 計	101 人	0 人				0.00 %	

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らしてはいけません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<農学生命科学部 国際園芸農学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	導入科目 基礎ゼミナール	1前	2			8 24 25	14 28 31		1 12 10		当該年度担当の教員を計上 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	スキル 地域学ゼミナール	1後	2			5 24 25	3 28 31		1 12 10		兼46 兼48 兼46 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	ローカル科目 青森の行政	1前		2							兼1 兼2 兼4 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	青森の経済・産業	1前		2							兼5 兼3 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
	青森の文化	1前		2							兼10 兼7 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	青森の歴史	1前		2							兼3 兼9 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	青森の芸術	1前		2							兼3 兼7 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	青森の民俗・芸能	1前		2							兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	青森の自然	1前		2		7 4 2	9 4		1		兼19 兼22 兼16 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2			1			
	国際地域	1後		2							兼6 兼8 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	比較文化	1後		2							兼4 兼3 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	世界の芸術・芸能	1後		2							兼3 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	地球環境	1後		2		4 1	2 3				兼5 兼3 兼1 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	グローバルヘルス	1後 未開講 1後		2							兼5 兼50 通常開講 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 2年次以上の受講科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講 (28)
	日本	1後		2							兼9 兼8 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
学部越境型地域志向科目	青森の多様性と活性化	2前～4後		2		1 3	1				兼29 兼24 兼62 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	青森の食と産業化	2前～4後		2		2	5				兼2 兼6 兼8 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	市民参加と地域づくり	2前～4後		2							兼8 兼14 兼10 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	青森エクスカージョン	2前～4後		2			2				兼15 兼12 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	地域プロジェクト演習	2前～4後		2							兼18 兼17 兼23 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)

社会・文化	暮らし・文化	1前・後	2						兼5 兼3 兼2	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	歴史・地理	1前・後	2	1					兼6 兼5	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	思想	1前・後	2						兼3 兼4 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	言語学の世界	1前・後	2						兼2 兼3 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	文学	1前・後	2						兼3 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	芸術	1前・後	2						兼16 兼17 兼22	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	政治経済・社会	1前・後	2						兼12 兼18 兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	法と社会 A	1前・後	2						兼1 兼2 兼4	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	法と社会 B	1前・後	2						兼3 兼2 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
自然・科学	環境と生活	1前・後	2	1	1				兼34 兼34 兼17	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	工学の世界	1前・後	2	-4	4		1		兼4 兼6 兼8	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	農学の世界	1前・後	2	2	2		1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	数学の世界	1前・後	2	1					兼1 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	物理学の世界	1前・後	2			1			兼8 兼9 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	化学の世界	1前・後	2	2	2				兼7 兼11 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	生物学の世界	1前・後	2	7	7				兼10 兼12 兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報処理入門 A	1前・後	2						兼3 兼4 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	情報処理入門 B	1前・後	2	1	1				兼14 兼11 兼21	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
人間・生命	人間の尊厳	1前・後	2						兼5 兼6 兼7	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	人を育む営み	1前・後	2						兼19 兼23 兼17	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	心理学の世界	1前・後	2						兼9 兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	メンタルヘルス	1前・後	2						兼8 兼5 兼14	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	生活と健康	1前・後	2	1					兼8 兼18	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	運動と健康 A	1前・後	2						兼15 兼16 兼13	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	運動と健康 B	1前・後	2						兼3 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)

	医学・医療の世界	1前・後	2			2				兼50 兼60 兼48 兼2 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	情報と健康・医学	1前・後	2							兼2 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
キャリア教育	キャリア形成の基礎	1後	1 2							兼4 兼3	COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる単位数及び教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	キャリア形成の発展	2前	3							兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目追加 (28)
	キャリア形成の発展A	3前	2							兼3	COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展B	3前	2							兼3	COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展C	3前	2							兼3	COC+事業採択に伴うかほう改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリアデザイン	2前～4後	2			1 2	4			兼6 兼10 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
英語	Listening (初級)	1前	2							兼7 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (中級)	1前	2							兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (上級)	1前	2							兼4 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (初級)	1前	2							兼8 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (中級)	1前	2							兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (上級)	1前	2							兼3 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (初級)	1後	2							兼7 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (中級)	1後	2							兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (上級)	1後	2							兼4 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (初級)	1後	2							兼9 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (中級)	1後	2							兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (上級)	1後	2							兼4 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		Integrated A (国際共通語としての英語)	2前	2			1				兼2 兼41 兼22
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 1	2後	2							兼2 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 2	3前	2							兼41 兼22	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated C (キャリア英語)	3前	2							兼41 兼22	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
多言語	ドイツ語 I	1前	4							兼5 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)

		ドイツ語Ⅱ	1後	4					兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		ドイツ語Ⅲ	2後	2					兼1 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		フランス語Ⅰ	1前	4					兼5 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		フランス語Ⅱ	1後	4					兼3 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		フランス語Ⅲ	2前	2					兼1 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		ロシア語Ⅰ	1前	4					兼1				
		ロシア語Ⅱ	1後	4					兼1				
		中国語Ⅰ	1前	4					兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		中国語Ⅱ	1後	4					兼3 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)			
		朝鮮語Ⅰ	1前	4					兼1				
		朝鮮語Ⅱ	1後	4					兼1				
		日本語A	1前	2					兼2	教育内容充実のため、科目の追加 (29)			
		日本語B	1前	2					兼1	教育内容充実のため、科目の追加 (29)			
専門教育科目(園芸農学コース)	コア科目	農学生命科学概論	1前	2			2	1		2	兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		国際食料流通論	1後	2				1					
		起業ビジネス論	3前	2			1						
	学科共通	食料経済論	1前	2					1				
		園芸農学基礎演習	1後	2			2 6	4 9			2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		園芸学	1後	2			1	2					
		国際園芸農学入門	2前	2			6	8 9			3 2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		畜産学汎論	2前	2			2						
		作物学汎論	2前	2				1					
		農業経済論	2前	2			2 4	1				兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		食の機能・安全科学	2後	2								兼6 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		園芸農学基礎実験	2前・後	2			1 4	3 4			1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		農場実習	2前・後	4								兼4	
		海外研修入門	2通	1			6	8 9			3 2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		卒業研究	3後・4前・後	6			6	9			2		
		国際園芸農学専攻演習	4前・後	2			6	9			2		
		専門基礎科目	必修科目	生物学の基礎C	1前	2			3	3			
化学の基礎E	1後			2			2 4	3 2				教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
統計学の基礎	1後			2			1	1					
選択必修科目	国際有機資源論		2・3後		2		2	2					
	花卉園芸学		2・3後		2			1					
	蔬菜園芸学Ⅰ		2・3後		2			1					
	家畜生理学		2・3後		2		1						
	生産機械学Ⅰ		2・3後		2			1					
	地域社会論		2・3後		2			4			1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
	地域農業戦略論		2・3後		2		1					兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	家畜繁殖学		3前		2		1						
選択科	物理学の基礎A	1前		2							兼1		
	生物学の基礎A	1前		2							兼2		

目	化学の基礎C	1前		2							兼2
	物理学の基礎B	1後		2							兼1
	細胞生物学 I	2前		2							兼1
	作物育種学 I	2前		2							兼1
	細胞遺伝学	2前		2							兼1
	動物発生生物学	2前		2							兼1
	植物発生形態学	2前		2							兼1
	植物環境応答学 I	2前		2							兼1
	生化学 I	2前		2							兼1
	植物生理学A	2前		2							兼1
	コンピュータ演習	2後		2		1					
	分子生物学 I	2後		2							兼1
	基礎土壌学	2後		2							兼1
	作物バイオテクノロジー	3前		2							兼1
生物統計学	3前		2							兼1	
専門科目	必修科目										
	専門英語	3前	2			4	4		1		
	果樹園芸学	3前	2			1			1		
	非破壊品質評価論	3前	2			1					
	国際作物生産論	3後	2				1				
	地域ブランド農産物論	3後	2			2	5				
園芸農学専攻実験・実習	3前・後	4			4	4		1			
選択必修科目	蔬菜園芸学 II	3前		2			1				
	家畜飼養学	3前		2		1					
	生産機械学 II	3前		2			1				
	果実利用学	3後		2		1					
	家畜育種学	3後		2		1					
選択科目	生物有機化学 I	2前		2							兼1
	応用昆虫学	2前		2							兼1
	森林生態学	2後		2							兼2
	インターンシップ	3前		1		6	9		2		
	農産物貿易論	3前		2			1				
	協同組合論	3前		2			1				
	農業経営管理論	3前		2					1		
	農産食品開発論	3前		2							兼1
	国際農業開発論	3前		2			1				
	国際食品マーケティング論	3前		2			1				
	作物生理学	3前		2							兼1
	作物生態学	3前		2							兼1
	動物生理学	3前		2							兼1
	栽培環境学	3前		2							兼1
	食品流通論	3前		2		1					
	微生物機能利用学	3前		2							兼1
	生物学専門実験	3前		2		2	1				兼8
	海外農畜産物市場論	3後		2			1				
	食品産業論	3後		2		1					
	国際フードビジネス論	3後		2		1					
	農業政策論	3後		2			1				
	食品科学	3後		2							兼1
	食品栄養学	3後		2							兼1
	食品保蔵学	3後		2							兼1
	作物栽培管理学	3後		2							兼1
	作物栄養学	3後		2							兼1
	植物病理学	3後		2							兼1
	植物生態学	3後		2							兼1
	農業気象学	3後		2							兼1
作物病害管理学	3後		2							兼1	
土壌物理学	3後		2							兼1	
菌学	4前		2							兼1	

		農業思想論	4前	2			1					兼1		
		食品分析学	4前	2								兼1		
		食品衛生学	4前	2								兼1		
		食品製造学	4前	2								兼1		
		食品官能評価法	4前	2								兼1		
		動物行動学	4前	2								兼1		
		保全生態学	4前	2								兼1		
		海外農地保全学	4前	1								兼3		
		応用昆虫学	4前	2								兼1	誤記のため削除 (28)	
		食品物性学	4後	2								兼1		
		水圏資源管理学	4後	2								兼1		
		国際灌漑排水論	4後	1								兼2		
		栽培土壌学	4後	2								兼1		
		食品機能性成分分析学	4後	2								兼1		
専門教育科目(食農経済コース)	コア科目	農学生命科学概論	1前	2			2	1		2		兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		国際食料流通論	1後	2				1						
		起業ビジネス論	3前	2			1							
	学科共通	食料経済論	1前	2				1						
		園芸農学基礎演習	1後	2			2	4			2		教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		園芸学	1後	2			1	2						
		国際園芸農学入門	2前	2			6	8			3		教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
		畜産学汎論	2前	2			2	9			2			
		作物学汎論	2前	2				1						
		農業経済論	2前	2			2	1					兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		食の機能・安全科学	2後	2									兼6 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		園芸農学基礎実験	2前・後	2			1	3			1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		農場実習	2前・後	4			-4	-4					兼4	
		海外研修入門	2通	1			6	8			3			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		卒業研究	3後・4前・後	6			6	9			2			
国際園芸農学専攻演習	4前・後	2			6	9			2					
専門基礎科目	必修科目	生物学の基礎C	1前	2			3	3					教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
		化学の基礎E	1後	2			2	3					教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
		統計学の基礎	1後	2			1	1						
	選択必修科目	国際有機資源論	2・3後	2			2	2						
		花卉園芸学	2・3後	2				1						
		蔬菜園芸学 I	2・3後	2				1						
		家畜生理学	2・3後	2			1							
		生産機械学 I	2・3後	2				1						
		地域社会論	2・3後	2				4			1			教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
		地域農業戦略論	2・3後	2			1						兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
家畜繁殖学	3前	2			1									

選択科目	物理学の基礎A	1前		2						兼1
	生物学の基礎A	1前		2						兼2
	化学の基礎C	1前		2						兼2
	物理学の基礎B	1後		2						兼1
	細胞生物学 I	2前		2						兼1
	作物育種学 I	2前		2						兼1
	細胞遺伝学	2前		2						兼1
	動物発生生物学	2前		2						兼1
	植物発生形態学	2前		2						兼1
	植物環境応答学 I	2前		2						兼1
	生化学 I	2前		2						兼1
	植物生理学A	2前		2						兼1
	コンピュータ演習	2後		2		1				
	分子生物学 I	2後		2						兼1
	基礎土壌学	2後		2						兼1
作物バイオテクノロジー	3前		2						兼1	
生物統計学	3前		2						兼1	
専門科目	必修									
	専門英語	3前	2			2	5		1	
	国際食品マーケティング論	3前	2				1			
	農産物貿易論	3前	2				1			
	食農経済専門演習 I	3前	2			2	5		1	
	食農経済専門演習 II	3後	2			2	5		1	
	地域ブランド農産物論	3後	2			2	5			
食農経済専攻調査実習	3前・後	4			2	5		1		
選択必修科目	協同組合論	3前		2			1			
	農業経営管理論	3前		2					1	
	農産食品開発論	3前		2						兼1
	国際農業開発論	3後		2			1			
	海外農畜産物市場論	3後		2			1			
	国際フードビジネス論	3後		2		1				
	農業政策論	3後		2			1			
	食品産業論	3後		2		1				
農業思想論	4前		2				1			
選択科目	生物有機化学 I	2前		2						兼1
	応用昆虫学	2前		2						兼1
	森林生態学	2後		2						兼2
	果樹園芸学	3前		2		1			1	
	蔬菜園芸学 II	3前		2			1			
	家畜飼養学	3前		2		1				
	生産機械学 II	3前		2			1			
	インターンシップ	3前		1		6	9		2	
	栽培環境学	3前		2						兼1
	作物生態学	3前		2						兼1
	食品流通論	3前		2		1				
	非破壊品質評価論	3前		2		1				
	微生物機能利用学	3前		2						兼1
	生物学専門実験	3前		2		2	1			兼8
	国際作物生産論	3後		2			1			
	果実利用学	3後		2		1				
	家畜育種学	3後		2		1				
	食品保蔵学	3後		2						兼1
	食品科学	3後		2						兼1
	植物病理学	3後		2						兼1
	植物生態学	3後		2						兼1
作物栽培管理学	3後		2						兼1	
農業気象学	3後		2						兼1	
作物病害管理学	3後		2						兼1	

	土壌物理学	3後	2						兼1
	食品衛生学	4前	2						兼1
	食品製造学	4前	2						兼1
	食品官能評価法	4前	2						兼1
	海外農地保全学	4前	1						兼3
	動物行動学	4前	2						兼1
	保全生態学	4前	2						兼1
	水圏資源管理学	4後	2						兼1
	国際灌漑排水論	4後	1						兼2
	栽培土壌学	4後	2						兼1
	食品機能性成分分析学	4後	2						兼1

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

園芸農学コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
28	154	0	182	28	153 151 △1 [△3]	0	181 179 △1 [△3]	
				[0]	[△3]	[0]	[△3]	

食農経済コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
29	147	0	176	29	147 145 0 [△2]	0	176 174 0 [△2]	
				[0]	[△2]	[0]	[△2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	グローバルヘルス	2	1後	一般	選択	2年次以上のグローバル科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講。代替措置無。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	キャリア形成の発展A	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
2	キャリア形成の発展B	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
3	キャリア形成の発展C	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「グローバルヘルス」は、2年次以上が受講する21世紀教育科目（平成27年度までの入学者を対象とした旧教養教育科目）を優先して開講したため、後期に教員を配置することが出来ず、未開講となった。ただし、選択科目であり、グローバル科目が他にも多数開講されること、平成29年度は開講予定で希望すれば受講出来ることから、学生への影響はない。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みである。</p> <p>COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施に伴い、キャリア教育科目全体の教育内容を、多様なプログラムを含む、より充実したカリキュラムとするため、「キャリア形成の発展A」、「キャリア形成の発展B」、「キャリア形成の発展C」を廃止し、新たに「キャリア形成の発展」を追加する等の見直しを行った。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みであることから、影響はない。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

園芸農学コース	
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	4
設置時の計画の授業科目数の計(A)	182
	2.19
食農経済コース	
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	4
設置時の計画の授業科目数の計(A)	176
	2.27

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	76,254 m ²	0 m ²	0 m ²	76,254 m ²				
	運動場用地	82,910 m ²	0 m ²	0 m ²	82,910 m ²				
	小 計	159,164 m ²	0 m ²	0 m ²	159,164 m ²				
	そ の 他	169,525 m ²	0 m ²	0 m ²	169,525 m ²				
	合 計	328,689 m ²	0 m ²	0 m ²	328,689 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		166,219 m ² (167,762 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	166,219 m ² (167,762 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		99 室	108 室	455 室	11 室 (補助職員 0人)	7 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		農学生命科学部 国際園芸農学科			17 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
		冊	種	[うち外国書]					点
		819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
	計	819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		7,680 m ²		626 席		867,806 冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		3,394 m ²		野球場 (2面) 弓道場 (140m ²)		武道場 (883m ²) テニスコート (8面)			
		1,457 m ²		プール (50m) 馬房 (196m ²)		サッカー・ラグビー場 (2面) 400mトラック			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	弘前大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
《AC対象学部等》									
【学部】									
人文社会科学部									
文化創生課程	4	110	0	220	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
社会経営課程	4	155	0	310	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	同上	
理工学部									
数物科学科	4	78	3年次 2	156	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
物質創成化学科	4	52	3年次 1	196	学士 (理工学)	1.01	平成18年度	同上	平成28年度入学定員増(6人)
地球環境防災学科	4	65	3年次 2	130	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
電子情報工学科	4	55	3年次 2	226	学士 (理工学)	1.02	平成18年度	同上	平成28年度入学定員減(△3人)
機械科学科	4	80	3年次 2	160	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	60	学士 (理工学)	1.03	平成28年度	同上	
農学生命科学部									
生物学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
分子生命科学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.00	平成20年度	同上	
食料資源学科	4	55	0	110	学士 (農学生命科学)	1.00	平成28年度	同上	
国際園芸農学科	4	50	0	100	学士 (農学生命科学)	1.01	平成28年度	同上	
地域環境工学科	4	30	0	120	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	同上	
【大学院】									
教育学研究科									
(専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	16	0	16	教職修士 (専門職)	1.12	平成29年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
《その他の学部等》									
【学部】									
人文学部									
人間文化課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度より学生募集停止
現代社会課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
経済経営課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	150	0	590	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度入学定員増(5人)

養護教諭養成課程	4	20	0	90	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	同上	平成28年度入学定員減(△5人)
生涯教育課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成12年度	同上	平成28年度より学生募集停止
医学部									
医学科	6	112	2年次 20	760	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	青森県弘前市大字在府町5番地	
保健学科	4	200	3年次 30	860	学士 (看護学又は保健学)	1.00	平成12年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
理工学部									
数理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	平成28年度より学生募集停止
物理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
地球環境学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
農学生命科学部									
生物資源学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	平成28年度より学生募集停止
園芸農学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	
【大学院】									
人文社会科学研究科									
(修士課程)									
文化科学専攻	2	10	0	20	修士 (人文社会科学)	0.90	平成11年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
応用社会科学専攻	2	6	0	12	修士 (人文社会科学)	0.66	平成11年度	同上	
教育学研究科									
(修士課程)									
学校教育専攻	2	16	0	22	修士 (教育学)	1.27	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度入学定員増(10人)
教科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成14年度	同上	
医学研究科									
(博士課程)									
医科学専攻	4	60	0	220	博士 (医学)	0.95	平成16年度	青森県弘前市大字在府町5番地	平成28年度入学定員増(10人)
保健学研究科									
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	30	0	60	修士 (看護学又は保健学)	1.13	平成19年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	12	0	33	博士 (保健学)	1.00	平成19年度	同上	平成28年度入学定員増(3人)
理工学研究科									
(博士前期課程)									

理工学専攻 (博士後期課程)	2	120	0	240	修士 (理工学)	0.91	平成22年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
機能創成科学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.62	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
安全システム工学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.87	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
農学生命科学研究科 (修士課程)									
農学生命科学専攻	2	60	0	120	修士 (農学生命科学)	0.77	平成24年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
地域社会研究科 (博士課程)									
地域社会専攻	3	6	0	18	博士 (学術)	1.44	平成14年度	青森県弘前市大字文京町1番地	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学生命科学部 国際園芸農学科>

(1) 担当教員表

<学部共通教養教育科目>

<專門科目>

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
6	9	0	2	17	6	8	0	3	17	7	7	0	3	17
(6)	(6)	(0)	(2)	(14)						[1]	[Δ2]	[0]	[1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入すると [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計（A）					後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計（C）					後任補充状況の集計（D）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年4月)	【人文社会科学部】 実習科目が、施設見学や裁判傍聴などの感想文を書かせる類の単なる社会科見学とならないよう、しっかりした実施計画の具体化を図ることが望ましい。	要望意見	実習科目について、「地域行政実習」及び「地域司法実習」を含めて、教育成果の検証等にまでふみこんだ入念な実施計画を事前に作成し、計画に沿って実施している。(29)
設 置 時 (平成28年4月)	【理工学部】 「数物科学科」の2年次コース選択において、学生に対する適切なオリエンテーションを行い、学生に各コースの特色を理解させた上で、各コースの履修生を教育指導体制等を踏まえた適切な数とすることが望ましい。	要望意見	数物科学科の2年次コース選択において、学生が各コースの特色や履修内容を理解できるようオリエンテーションを行った。その後、希望調査の結果に基づき、教員数や実験設備等の教育指導体制の観点から適切な人数になるよう調整し、各コースに所属した。(29)
設 置 時 (平成28年4月)	【農学生命科学部】 1. 食料資源学科について、食料バイオテクノロジーコースが含まれており、既存の分子生命科学科との区別がつきにくい。分子生命科学科の説明にも、「新規食材の発掘と開発や発酵による食品の開発等の知識を持った人材育成の強化を図る」と書かれており、食料資源学科との異同が分りにくいため、適切に説明することが望ましい。	要望意見	1. 要望意見を踏まえ、分子生命科学科の説明を「新規機能性食材の発掘と開発や、発酵による有用物質生産等の知識を持った人材育成の強化を図る。」へ修正し、設置報告書を提出した。
	2. 食料資源学科の3つのコースのカリキュラム上の違いが明確ではないため、コースごとの教育課程編成の特色及びその違いを明確に説明することが望ましい。	要望意見	2. 要望意見を踏まえ、各コースの特色を記載し、それに合わせて履修モデルを修正し、設置報告書を提出した。
	3. コア科目の「国際農業論」は、流通・貿易に焦点を置いているので、例えば、「国際食料流通論」等を含め、科目名称に再検討することが望ましい。	要望意見	3. 要望意見を踏まえ、「国際農業論」から「国際食料流通論」へ科目名を変更し、設置報告書を提出した。
	4. 多言語科目は、その多くが半期で4単位を配当しているが、週に2コマ開講するとすれば、専門科目の数が多めに設定されていることを考慮すると、どのような時間割編成になるのが懸念されるため、学生が希望する履修ができるよう時間割編成に配慮することが望ましい。	要望意見	4. 学生が希望する教養科目（多言語科目等）の履修が可能となるように、専門科目の時間割編成において配慮している。また、新入生ガイダンスや履修相談において、適切な指導を行っている。(29)
	【教育学研究科教職実践専攻】 1. 設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに教育委員会等と連携を図り、理論と実践を融合し、高度な実践力・応用力を備えた教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、教育目標と、その評価の基準・方法の明確化を図りつつ、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。		1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画に沿って準備を進めた。 平成28年度は、教職大学院専任教員（予定）及び事務方による教職大学院準備室会議を4月以降、原則、週1回開催し、設置の趣旨・目的の確認から始め、各項目の具体化に向けて協議を重ね、設置の準備に当たった。 また、専任教員（予定）4名が、6月に山梨大学教職大学院の授業及び実習を視察し、開校時への準備を進めた。さらに、教職大学院協会の研究集会や各教職大学院で開催されるフォーラムに専任教員（予定）6名が分担して参加し、情報収集を行った。

<p>設置時 (平成29年4月)</p>		<p>留意事項</p> <p>平成29年度に就任予定である8名の専任教員とは、教育学部長と教職大学院準備室長が個別に1～2回面談を行い、設置の趣旨・目的の共有を図った。 教育委員会との協議については、青森県教育委員会とは、青森県教育委員会教職大学院担当者及び青森県教育センター担当者と教職大学院準備室長及び準備室県教委担当者が、4月から月1回程度会議を行い、教育内容及び実習等の連携協力について協議を重ね、開設時に授業や実習等がスムーズに進むよう準備を重ねた。また弘前市教育委員会とは、実習担当教員(予定)が弘前市教育委員会に月1回程度出向き、関係者に実習についての説明と連携協力についての具体策を協議した。さらに、実習担当教員(予定)が連携協力校に出向き、開校時に実習が滞りなく行える様に調整を行った。 平成29年度に入り、専任教員の会議である大学院教育学研究科教職実践専攻会議を6回及びFD活動を7回開催し、授業、実習等のポートフォリオの形式と評価、教育実践研究科目の実施方法、教職大学院の運営等について協議を行った。(29)</p>	
	<p>2. ミドルリーダー養成コースの履修モデルについて、学生が自ら高めたい分野・領域に応じた推奨科目が示されているが、学生に自らがどのような力をつけたいか考えさせるとともに、より効果的な学修を实践するため、大学の推奨科目の履修を促す履修指導を行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>2. 入学後に開かれるガイダンスにおいて、授業科目の概要の説明を行うとともに、個別に履修相談を行う時間を設け、教務担当教員が各学生の学校現場での現在の役割や学生自身のキャリア形成計画及び研究課題意識を聞き取った上で、選択すべき授業科目を履修するよう指導を行った。(29)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

＜農学生命科学部 国際園芸農学科＞

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>①農学生命科学部自己評価委員会</p> <p>②農学生命科学部教育改善委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>①年間4回程度（委員：各学科・センターから計6名）</p> <p>②年間1回程度（委員：教育担当運営会議委員1名及び各学科・センターから6名の計7名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>それぞれの委員会申し合わせに定めるところによる。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容(教員資質向上にかかるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生及び教員へのアンケート（学部授業実施状況等，教育評価）分析結果報告会 ・ FD講演会（AO入試Q&A） ・ FD講演会（教育改善の取組事例） <p>b 実施方法</p> <p>自己評価委員会を中心に、学部卒業生及び教員へのアンケートを実施し、項目別に結果分析・考察をしたのちに報告会を開催する予定である。その後、各学科や教育改善委員会からのコメントを収集し、教育改善に向けたアンケート調査報告書を作成し公開する。また、教育改善委員会を中心に、学部FD講演会を実施する予定である。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>年間4回程度開催予定</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>アンケート分析は毎年実施しているため、経年的な教員の授業改善状況が把握でき、学科別での状況も分かる。各教員は、学生の授業アンケート結果を参考に授業改善に取り組んでおり、学科の教育目的・目標に沿った授業シラバスを作り、講義を行っている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>卒業時（1-2月）に、学部での学修期間に対する授業評価アンケートを実施予定</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>アンケート結果を報告書として、学部ホームページ上に公開予定</p>
--

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するように計画通りに実施している。今後、更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

学内検討中

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(29年 5月 30日)

○弘前大学農学生命科学部自己評価委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、本学部における教育研究活動の向上を目的として、自ら点検及び評価を行うため、弘前大学農学生命科学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 弘前大学農学生命科学部自己点検項目表（以下「項目表」という。）に基づき、自己点検の範囲を定め、自己評価の実施計画を作成し、教授会に提案する。
- (2) 自己点検を実施し、その結果を取りまとめる。
- (3) 項目表中の学部全体を対象とする項目については本委員会が自己点検・評価を行う。
- (4) 自己点検・自己評価の結果及び改善すべき事項について教授会に報告する。
- (5) 自己点検・自己評価の結果について教授会の議を経て、公表する。

(組織)

第3条 委員会は、本学部各学科及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センターから選出された専任担当教員（弘前大学農学生命科学部長及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター長を除く）各1名で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年半とし、再任を認めない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員の改選は2年ごとに事業年度の開始に合わせて行い、第1項の任期における最後の半年間は新旧委員が重複し、旧委員は「教育改善に向けたアンケート調査報告書」の作成にのみ従事する。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって決める。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長の任期は2年とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員の3名以上の出席をもって成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(兼務)

第8条 委員は、弘前大学諸規程に定められた次の室員を兼ねる。

- (1) 評価室員

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、弘前大学農学生命科学部総務グループ総務担当において処理する。

(その他)

第10条 この申合せに定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成16年10月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成22年10月20日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

○弘前大学農学生命科学部教育改善委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、弘前大学農学生命科学部教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育改善のための企画、調査、研究等に関すること。
- (2) 教育活動の評価に関すること。
- (3) 学生による授業評価に関すること。
- (4) ファカルティ・デベロップメントに関すること。
- (5) その他教育改善に関する事項。

(組織)

第3条 委員会は、弘前大学農学生命科学部運営会議学務担当委員（以下「運営会議委員」という。）及び本学部各学科と弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（以下「共生センター」という。）から選出された各1名の専任担当教員により構成される。

(委員の任期)

第4条 本学部各学科及び共生センターから選出された委員の任期は2年とし、半数交替制とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 運営会議委員の本委員会委員としての任期は、弘前大学農学生命科学部運営会議委員の任期に関わる申合せによる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、運営会議委員が委員長となる。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第6条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(申合せの改廃)

第7条 この申合せの改廃については、教授会の議を経て弘前大学農学生命科学部長が行う。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成21年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成27年4月1日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 弘前大学

(2) 大学名

弘前大学

(3) 大学の位置

〒036-8560

青森県弘前市大字文京町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長			
学長	サトウ ケイ 佐藤 敬 平成24年2月		
学部長	ハシモト マサル 橋本 勝 平成28年4月	マツザキ マサトシ 松崎 正敏 平成29年5月	辞任のため変更(29) ※事務取扱
学科長	フジサキ ヒロユキ 藤崎 浩幸 平成28年4月	ササキ チョウイチ 佐々木 長市 平成29年4月	任期満了のため変更(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
農学生命科学部 地域環境工学科 学士(農学生命科学)	農学関係	4年	30人	— 年次人	120人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	30 () [若干名]	—	30 () [若干名]	—	() () []	() () []	() () []	() () []	1.01 倍	
志願者数	126 () () [] []	—	105 () () [] []	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
受験者数	75 () () [] []	—	76 () () [] []	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
合格者数	34 () () [] []	—	35 () () [] []	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
B 入学者数	30 () () [] []	—	31 () () [] []	—	() () [] []	() () [] []	() () [] []	() () [] []		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.03							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	30 [-] (-)	- [-] (-)	31 [-] (-)	- [-] (-)							
2年次	/		30 [-] (-)	- [-] (-)							
3年次			/								
4年次	/										
計			30 [-] (-)		61 [-] (-)						

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	30 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	31 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	61 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らしてはなりません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<農学生命科学部 地域環境工学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	導入科目 スキル	基礎ゼミナール	1前	2			8 24 25	14 28 31		1 12 10		当該年度担当の教員を計上 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		地域学ゼミナール	1後	2			5 24 25	3 28 31		12 10 10		兼46 兼487 兼466 当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	ローカル科目	青森の行政	1前		2							兼1 兼2 兼4 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の経済・産業	1前		2							兼5 兼3 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)
		青森の文化	1前		2							兼10 兼7 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
		青森の歴史	1前		2							兼3 兼9 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の芸術	1前		2							兼3 兼7 兼5 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
		青森の民俗・芸能	1前		2							兼2 兼3 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	青森の自然	1前		2			7 4 2	9 4 4		1 1 1		兼19 兼22 兼16 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	グローバル科目	グローバル社会・経済	1後		2					4		兼4 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
国際地域		1後		2							兼6 兼8 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
比較文化		1後		2							兼4 兼3 兼9 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
世界の芸術・芸能		1後		2							兼3 兼6 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)	
地球環境		1後		2		4	4	2 3			兼5 兼3 兼1 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)	
グローバルヘルス		1後 未開講		2								通常開講 (29) 兼5 兼50 教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 2年以上の受講科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講 (28)
学部越境	日本	1後		2							兼9 兼8 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
学部越境	青森の多様性と活性化	2前~4後		2		1 3	4				兼29 兼24 兼62 教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	

型地域志向科目	青森の食と産業化	2前～4後	2		2	5			兼2 兼6 兼8	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	市民参加と地域づくり	2前～4後	2						兼8 兼14 兼10	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	青森エクスカージョン	2前～4後	2			2			兼15 兼12	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	地域プロジェクト演習	2前～4後	2						兼18 兼17 兼23	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
社会・文化	くらし・文化	1前・後	2						兼5 兼3 兼2	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	歴史・地理	1前・後	2		1				兼6 兼5	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	思想	1前・後	2						兼3 兼4 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	言語学の世界	1前・後	2						兼2 兼3 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	文学	1前・後	2						兼3 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
	芸術	1前・後	2						兼16 兼17 兼22	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	政治経済・社会	1前・後	2						兼12 兼18 兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	法と社会A	1前・後	2						兼1 兼2 兼4	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
法と社会B	1前・後	2						兼3 兼2 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)	
自然・科学	環境と生活	1前・後	2		1	4			兼34 兼31 兼17	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	工学の世界	1前・後	2		-4	5		1	兼4 兼6 兼8	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	農学の世界	1前・後	2		2 -4	4		1		教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	数学の世界	1前・後	2		4				兼1 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	物理学の世界	1前・後	2			2			兼8 兼9 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	化学の世界	1前・後	2		2 3	3			兼7 兼11 兼5	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	生物学の世界	1前・後	2		7 8	7			兼10 兼12 兼1	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報処理入門A	1前・後	2						兼3 兼4 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)

	情報処理入門B	1前・後		2		4	1													兼14 兼11 兼21	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
人間・生命	人間の尊厳	1前・後		2																兼5 兼6 兼7	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	人を育む営み	1前・後		2																兼19 兼23 兼17	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	心理学の世界	1前・後		2																兼9 兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	メンタルヘルス	1前・後		2																兼8 兼5 兼14	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) 教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	生活と健康	1前・後		2			1													兼8 兼18	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	運動と健康A	1前・後		2																兼15 兼16 兼13	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	運動と健康B	1前・後		2																兼3 兼6	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
	医学・医療の世界	1前・後		2					2											兼50 兼60 兼48	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	情報と健康・医学	1前・後		2																兼2 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29)
キャリア教育	キャリア形成の基礎	1後	1 2																	兼4 兼3	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる単位数及び教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	キャリア形成の発展	2前		3																兼5 兼4	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29) COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目追加 (28)
	キャリア形成の発展A	3前		2																兼3	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展B	3前		2																兼3	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリア形成の発展C	3前		2																兼3	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止 (28)
	キャリアデザイン	2前～4後		2			1 2	4												兼6 兼10 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
英語	Listening (初級)	1前		2																兼7 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (中級)	1前		2																兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Listening (上級)	1前		2																兼4 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (初級)	1前		2																兼8 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Reading (中級)	1前		2																兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)

	Reading (上級)	1前	2						兼3 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (初級)	1後	2						兼7 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Speaking (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (初級)	1後	2						兼9 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (中級)	1後	2						兼20 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Writing (上級)	1後	2						兼4 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated A (国際共通語としての英語)	2前	2			1			兼2 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 1	2後	2						兼2 兼41 兼22	当該年度担当の教員を計上 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated B(一般学術目的の英語)Level 2	3前	2						兼41 兼22	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	Integrated C (キャリア英語)	3前	2						兼41 兼22	教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
多 言 語	ドイツ語 I	1前	4						兼5 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	ドイツ語 II	1後	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	ドイツ語 III	2後	2						兼1 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	フランス語 I	1前	4						兼5 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	フランス語 II	1後	4						兼3 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	フランス語 III	2前	2						兼1 兼8 兼3	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	ロシア語 I	1前	4						兼1	
	ロシア語 II	1後	4						兼1	
	中国語 I	1前	4						兼4 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	中国語 II	1後	4						兼3 兼8 兼2	教育効果充実のため、担当教員の変更 (29) 教育内容充実のため、担当教員の追加 (28)
	朝鮮語 I	1前	4						兼1	
	朝鮮語 II	1後	4						兼1	

		日本語A	1前		2							兼2	教育内容充実のため、科目の追加 (29)	
		日本語B	1前		2							兼1	教育内容充実のため、科目の追加 (29)	
専門教育科目 (農山村環境コース)	コア科目	学部共通	農学生命科学概論	1前	2			3 2	4				兼12	教育効果充実のため、担当教員の変更 (28)
			国際食料流通論	1後	2								兼1	
			起業ビジネス論	3前	2									兼1
	学科共通	地域環境工学概論	1前	2				4	4		3			
		コンピュータ演習 I	1前	2					1					
		土壌物理学	1後	2							1			
		環境基礎構造学	2前	2				1						
		構造力学 I	2前	2							1			
		水理学 I	2前	2				1						
		土質力学	2前	2				1						
		測量学	2前	2					1					
		応用数学	2前	2					1					
		測量学実習	2前	2					1					
		農場実習	2前	2									兼4	
		地域計画学 I	2後	2				1						
		環境水文学	2後	2					1					
		地域環境情報学	2後	2					1					
		地盤工学	2後	2					1					
		農業水利学	3前	2					1					
		海外農地保全学	3前	1				1	1		1			
国際灌漑排水論	3後	1				1	1							
専門英語	3後	2					2		2					
地域環境工学実験	3前・後	4				4	4		3					
卒業研究	3後・4前・後	6				4	4		3					
専門基礎科目	科目必修	数学の基礎B	1後	2			1							
		物理学の基礎B	1後	2				1						
	選択必修科目	工学系科目	技術者倫理学	2前		2							兼1	
			水理学演習	2前		1		1						
			構造力学演習	2前		1					1			
			コンピュータ演習 II	2後		2					2			
			水理学 II	2後		2		1						
			応用推計学	2後		2			1					
			構造力学 II	2後		2			1					
			応用測量学	2後		2		1						
選択科目	生物学の基礎A	1前		2								兼2		
	生物学の基礎C	1前		2								兼6 兼3	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
	化学の基礎A	1前		2								兼1		
	化学の基礎E	1後		2								兼5 兼3	教育内容充実のため、担当教員の追加 (29)	
	園芸学	1後		2								兼3		
	畜産学汎論	2前		2								兼2		
	作物学汎論	2前		2								兼1		
専門科目	選択必修科目	実習科目	海外研修入門	2通		1	1	1		1				
			地域環境工学実習	3前		2	1	1						
			インターンシップ	3前		1	1	1						
	環境系科目	農業気象学	1後		2								兼1	
		地域計画学 II	3前		2		1							
		地域計画学演習	3前		1		1							
		山間地環境計画学 I	3前		2		1			1				
山間地環境計画学実習	3前		1		1			1						
山間地環境計画学 II	3後		2		1									

	農業水利学	3前	2			1					
	海外農地保全学	3前	1		1	1		1			
	国際灌漑排水論	3後	1		1	1					
	専門英語	3後	2			2		2			
	地域環境工学実験	3前・後	4		4	4		3			
	卒業研究	3後・4前・後	6		4	4		3			
専門基礎科目	数学の基礎B	1後	2			1					
	物理学の基礎B	1後	2				1				
	技術者倫理学	2前	2							兼1	
	水理学演習	2前	1		1						
	構造力学演習	2前	1					1			
	コンピュータ演習Ⅱ	2後	2					2			
	水理学Ⅱ	2後	2		1						
	応用推計学	2後	2			1					
	構造力学Ⅱ	2後	2			1					
	応用測量学	2後	2		1						
専門科目	地盤工学演習	2後	1			1					
	農地工学Ⅰ	3前	2		1						
	土木材料・施工	3前	2			1					
	山間地環境計画学Ⅰ	3前	2		1			1			
	地域計画学Ⅱ	3前	2		1						
	地域計画学演習	3前	1		1						
	地域環境工学実習	3前	2		1	1					
	水利造構学	3後	2			1					
	農地工学Ⅱ	3後	2			1					
	環境水利学	3後	2			1					
	構造物設計法	3後	2		1	1					
自主科目	生物学の基礎A	1前		2						兼2	
	生物学の基礎C	1前		2						兼6	
	化学の基礎A	1前		2						兼3	教育内容充実のため、担当教員の追加(29)
										兼1	
	化学の基礎E	1後		2						兼5	
	農業気象学	1後		2						兼3	教育内容充実のため、担当教員の追加(29)
	園芸学	1後		2						兼1	
	海外研修入門	2通		1	1	1		1		兼3	
	畜産学汎論	2前		2						兼2	
	地域農業戦略論	2後		2						兼1	
	水圏資源管理学	2後		2						兼1	
	作物学汎論	2前		2						兼1	
	生産機械学Ⅰ	2後		2						兼1	
	森林生態学	2後		2						兼2	
	保全生態学	3前		2						兼1	
	農業経済論	3前		2						兼3	
	生産機械学Ⅱ	3前		2						兼1	
	食料経済論	3前		2						兼1	
	農業経営管理論	3前		2						兼1	
	農産食品開発論	3前		2						兼1	
	生物学専門実験	3前		2						兼11	
	海外農畜産物市場論	3後		2						兼1	
	地域社会論	3後		2						兼1	
	栽培土壌学	3後		2						兼1	
	応用昆虫学	4前		2						兼1	
	食の機能・安全科学	4後		2						兼4	
	動物行動学	4前		2						兼1	
	農業思想論	4前		2						兼1	
	協同組合論	4前		2						兼1	
	進化生態学	4前		2						兼1	

国際食品マーケティング論	4前	2						兼1
食品衛生学	4前	2						兼1
食品製造学	4前	2						兼1
山間地環境計画学Ⅱ	4後	2	1					
農業政策論	4後	2						兼1
食品産業論	4後	2						兼1
国際作物生産論	4後	2						兼1
国際フードビジネス論	4後	2						兼1
国際有機資源論	4後	2						兼4
食品科学	4後	2						兼1

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任, 兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお, 昨年度の報告書において見え消しした部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任, 兼担の教員が担当する授業科目については, 備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で, 専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては, 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には, 「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について, 設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても, 設置認可時の状況を黒字で記入してください。また, 前年度報告時より修正があれば, 赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

農山村環境コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
29	138	0	167	29	138 136 0	0	167 165 0	
				[0]	[-2]	[0]	[-2]	

農業土木コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
48	117	0	165	48	117 115 0	0	165 163 0	
				[0]	[-2]	[0]	[-2]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに, [] 内に, 設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	グローバルヘルス	2	1後	一般	選択	2年次以上のグローバル科目を優先したため、教員配置が出来ず未開講。代替措置無。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	キャリア形成の発展A	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
2	キャリア形成の発展B	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。
3	キャリア形成の発展C	2	3前	一般	選択	COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施にあたり、教育内容を見直したことによる科目廃止。代替措置有。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「グローバルヘルス」は、2年次以上が受講する21世紀教育科目（平成27年度までの入学者を対象とした旧教養教育科目）を優先して開講したため、後期に教員を配置することが出来ず、未開講となった。ただし、選択科目であり、グローバル科目が他にも多数開講されること、平成29年度は開講予定で希望すれば受講出来ることから、学生への影響はない。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みである。</p> <p>COC+事業採択に伴うカリキュラム改革実施に伴い、キャリア教育科目全体の教育内容を、多様なプログラムを含む、より充実したカリキュラムとするため、「キャリア形成の発展A」、「キャリア形成の発展B」、「キャリア形成の発展C」を廃止し、新たに「キャリア形成の発展」を追加する等の見直しを行った。なお、学生には新入生ガイダンス及び掲示により周知済みであることから、影響はない。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

農山村環境コース	
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	4
設置時の計画の授業科目数の計(A)	167
2.39	
農業土木コース	
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	4
設置時の計画の授業科目数の計(A)	165
2.42	

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	76,254 m ²	0 m ²	0 m ²	76,254 m ²				
	運動場用地	82,910 m ²	0 m ²	0 m ²	82,910 m ²				
	小 計	159,164 m ²	0 m ²	0 m ²	159,164 m ²				
	そ の 他	169,525 m ²	0 m ²	0 m ²	169,525 m ²				
	合 計	328,689 m ²	0 m ²	0 m ²	328,689 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		166,219 m ² (167,762 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	166,219 m ² (167,762 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		99 室	108 室	455 室	11 室 (補助職員 0人)	7 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		農学生命科学部 地域環境工学科			11 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
		冊	種	[うち外国書]					点
		819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
	計	819,585 [232,294] (819,585 [232,294])	24,260 [6,216] (24,260 [6,216])	7,387 [5,595] (7,387 [5,595])	2,172 (2,172)	6,082 (6,082)	10 (10)		
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		7,680 m ²		626 席		867,806 冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		文京町		野球場 (2面)		武道場 (883m ²)			
		3,394 m ²		弓道場 (140m ²)		テニスコート (8面)			
		本町		プール (50m)		サッカー・ラグビー場 (2面)			
		1,457 m ²		馬房 (196m ²)		400mトラック			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	弘前大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
《AC対象学部等》 【学部】									
人文社会科学部									
文化創生課程	4	110	0	220	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
社会経営課程	4	155	0	310	学士 (人文社会科学)	1.03	平成28年度	同上	
理工学部									
数物科学科	4	78	3年次 2	156	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
物質創成化学科	4	52	3年次 1	196	学士 (理工学)	1.01	平成18年度	同上	平成28年度入学定員増(6人)
地球環境防災学科	4	65	3年次 2	130	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
電子情報工学科	4	55	3年次 2	226	学士 (理工学)	1.02	平成18年度	同上	平成28年度入学定員減(△3人)
機械科学科	4	80	3年次 2	160	学士 (理工学)	1.01	平成28年度	同上	
自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	60	学士 (理工学)	1.03	平成28年度	同上	
農学生命科学部									
生物学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
分子生命科学科	4	40	0	160	学士 (農学生命科学)	1.00	平成20年度	同上	
食料資源学科	4	55	0	110	学士 (農学生命科学)	1.00	平成28年度	同上	
国際園芸農学科	4	50	0	100	学士 (農学生命科学)	1.01	平成28年度	同上	
地域環境工学科	4	30	0	120	学士 (農学生命科学)	1.01	平成20年度	同上	
【大学院】									
教育学研究科 (専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	16	0	16	教職修士 (専門職)	1.12	平成29年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
《その他の学部等》 【学部】									
人文学部									
人間文化課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度より学生募集停止
現代社会課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
経済経営課程	4	-	-	-	学士 (人文社会科学)	-	平成17年度	同上	
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	150	0	590	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成28年度入学定員増(5人)

養護教諭養成課程	4	20	0	90	学士 (教育学)	1.02	平成12年度	同上	平成28年度入学定員減(△5人)
生涯教育課程	4	-	-	-	学士 (教育学)	-	平成12年度	同上	平成28年度より学生募集停止
医学部									
医学科	6	112	2年次 20	760	学士 (医学)	1.00	昭和24年度	青森県弘前市大字在府町5番地	
保健学科	4	200	3年次 30	860	学士 (看護学又は保健学)	1.00	平成12年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
理工学部									
数理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	平成28年度より学生募集停止
物理科学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
地球環境学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成18年度	同上	
農学生命科学部									
生物資源学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	平成28年度より学生募集停止
園芸農学科	4	-	-	-	学士 (農学生命科学)	-	平成20年度	同上	
【大学院】									
人文社会科学研究科									
(修士課程)									
文化科学専攻	2	10	0	20	修士 (人文社会科学)	0.90	平成11年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
応用社会科学専攻	2	6	0	12	修士 (人文社会科学)	0.66	平成11年度	同上	
教育学研究科									
(修士課程)									
学校教育専攻	2	16	0	22	修士 (教育学)	1.27	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度入学定員増(10人)
教科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	平成29年度より学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成14年度	同上	
医学研究科									
(博士課程)									
医科学専攻	4	60	0	220	博士 (医学)	0.95	平成16年度	青森県弘前市大字在府町5番地	平成28年度入学定員増(10人)
保健学研究科									
(博士前期課程)									
保健学専攻	2	30	0	60	修士 (看護学又は保健学)	1.13	平成19年度	青森県弘前市大字本町66-1番地	
(博士後期課程)									
保健学専攻	3	12	0	33	博士 (保健学)	1.00	平成19年度	同上	平成28年度入学定員増(3人)
理工学研究科									
(博士前期課程)									

理工学専攻 (博士後期課程)	2	120	0	240	修士 (理工学)	0.91	平成22年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
機能創成科学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.62	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
安全システム工学専攻	3	6	0	16	博士 (理学又は工学)	0.87	平成16年度	同上	平成28年度入学定員増(2人)
農学生命科学研究科 (修士課程)									
農学生命科学専攻	2	60	0	120	修士 (農学生命科学)	0.77	平成24年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
地域社会研究科 (博士課程)									
地域社会専攻	3	6	0	18	博士 (学術)	1.44	平成14年度	青森県弘前市大字文京町1番地	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学生命科学部 地域環境工学科>

(1) 担当教員表

<学部共通教養教育科目>

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
4	4	0	3	11	4	4	0	3	11	4	5	0	2	11
(4)	(4)	(0)	(3)	(11)						[0]	[1]	[0]	[Δ1]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入すると [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし							
合計（A）					後任補充状況の集計（B）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計（C）					後任補充状況の集計（D）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）				後任補充状況の集計（B）+（D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年4月)	【人文社会科学部】 実習科目が、施設見学や裁判傍聴などの感想文を書かせる類の単なる社会科見学とならないよう、しっかりした実施計画の具体化を図ることが望ましい。	要望意見 実習科目について、「地域行政実習」及び「地域司法実習」を含めて、教育成果の検証等にまでふみこんだ入念な実施計画を事前に作成し、計画に沿って実施している。(29)	
設 置 時 (平成28年4月)	【理工学部】 「数物科学科」の2年次コース選択において、学生に対する適切なオリエンテーションを行い、学生に各コースの特色を理解させた上で、各コースの履修生を教育指導体制等を踏まえた適切な数とすることが望ましい。	要望意見 数物科学科の2年次コース選択において、学生が各コースの特色や履修内容を理解できるようオリエンテーションを行った。その後、希望調査の結果に基づき、教員数や実験設備等の教育指導体制の観点から適切な人数になるよう調整し、各コースに所属した。(29)	
設 置 時 (平成28年4月)	【農学生命科学部】 1. 食料資源学科について、食料バイオテクノロジーコースが含まれており、既存の分子生命科学科との区別がつきにくい。分子生命科学科の説明にも、「新規食材の発掘と開発や発酵による食品の開発等の知識を持った人材育成の強化を図る」と書かれており、食料資源学科との異同が分りにくいため、適切に説明することが望ましい。	要望意見 1. 要望意見を踏まえ、分子生命科学科の説明を「新規機能性食材の発掘と開発や、発酵による有用物質生産等の知識を持った人材育成の強化を図る。」へ修正し、設置報告書を提出した。	
	2. 食料資源学科の3つのコースのカリキュラム上の違いが明確ではないため、コースごとの教育課程編成の特色及びその違いを明確に説明することが望ましい。	要望意見 2. 要望意見を踏まえ、各コースの特色を記載し、それに合わせて履修モデルを修正し、設置報告書を提出した。	
	3. コア科目の「国際農業論」は、流通・貿易に焦点を置いているので、例えば、「国際食料流通論」等を含め、科目名称に再検討することが望ましい。	要望意見 3. 要望意見を踏まえ、「国際農業論」から「国際食料流通論」へ科目名を変更し、設置報告書を提出した。	
	4. 多言語科目は、その多くが半期で4単位を配当しているが、週に2コマ開講するとすれば、専門科目の数が多めに設定されていることを考慮すると、どのような時間割編成になるのが懸念されるため、学生が希望する履修ができるよう時間割編成に配慮することが望ましい。	要望意見 4. 学生が希望する教養科目（多言語科目等）の履修が可能となるように、専門科目の時間割編成において配慮している。また、新入生ガイダンスや履修相談において、適切な指導を行っている。(29)	
	【教育学研究科教職実践専攻】 1. 設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに教育委員会等と連携を図り、理論と実践を融合し、高度な実践力・応用力を備えた教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、教育目標と、その評価の基準・方法の明確化を図りつつ、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	1. 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画に沿って準備を進めた。 平成28年度は、教職大学院専任教員（予定）及び事務方による教職大学院準備室会議を4月以降、原則、週1回開催し、設置の趣旨・目的の確認から始め、各項目の具体化に向けて協議を重ね、設置の準備に当たった。 また、専任教員（予定）4名が、6月に山梨大学教職大学院の授業及び実習を視察し、開校時への準備を進めた。さらに、教職大学院協会の研究集会や各教職大学院で開催されるフォーラムに専任教員（予定）6名が分担して参加し、情報収集を行った。	

<p>設置時 (平成29年4月)</p>		<p>留意事項</p> <p>平成29年度に就任予定である8名の専任教員とは、教育学部長と教職大学院準備室長が個別に1～2回面談を行い、設置の趣旨・目的の共有を図った。 教育委員会との協議については、青森県教育委員会とは、青森県教育委員会教職大学院担当者及び青森県教育センター担当者と教職大学院準備室長及び準備室教委担当者が、4月から月1回程度会議を行い、教育内容及び実習等の連携協力について協議を重ね、開設時に授業や実習等がスムーズに進むよう準備を重ねた。また弘前市教育委員会とは、実習担当教員(予定)が弘前市教育委員会に月1回程度出向き、関係者に実習についての説明と連携協力についての具体策を協議した。さらに、実習担当教員(予定)が連携協力校に出向き、開校時に実習が滞りなく行える様に調整を行った。 平成29年度に入り、専任教員の会議である大学院教育学研究科教職実践専攻会議を6回及びFD活動を7回開催し、授業、実習等のポートフォリオの形式と評価、教育実践研究科目の実施方法、教職大学院の運営等について協議を行った。(29)</p>	
	<p>2. ミドルリーダー養成コースの履修モデルについて、学生が自ら高めたい分野・領域に応じた推奨科目が示されているが、学生に自らがどのような力をつけたいか考えさせるとともに、より効果的な学修を实践するため、大学の推奨科目の履修を促す履修指導を行うことが望ましい。</p>	<p>その他意見</p> <p>2. 入学後に開かれるガイダンスにおいて、授業科目の概要の説明を行うとともに、個別に履修相談を行う時間を設け、教務担当教員が各学生の学校現場での現在の役割や学生自身のキャリア形成計画及び研究課題意識を聞き取った上で、選択すべき授業科目を履修するよう指導を行った。(29)</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<農学生命科学部 地域環境工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>①農学生命科学部自己評価委員会</p> <p>②農学生命科学部教育改善委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>①年間4回程度（委員：各学科・センターから計6名）</p> <p>②年間1回程度（委員：教育担当運営会議委員1名及び各学科・センターから6名の計7名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>それぞれの委員会申し合わせに定めるところによる。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容(教員資質向上にかかるもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生及び教員へのアンケート（学部授業実施状況等，教育評価）分析結果報告会 ・ FD講演会（AO入試Q&A） ・ FD講演会（教育改善の取組事例） <p>b 実施方法</p> <p>自己評価委員会を中心に、学部卒業生及び教員へのアンケートを実施し、項目別に結果分析・考察をしたのちに報告会を開催する予定である。その後、各学科や教育改善委員会からのコメントを収集し、教育改善に向けたアンケート調査報告書を作成し公開する。また、教育改善委員会を中心に、学部FD講演会を実施する予定である。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>年間4回程度開催予定</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>アンケート分析は毎年実施しているため、経年的な教員の授業改善状況が把握でき、学科別での状況も分かる。各教員は、学生の授業アンケート結果を参考に授業改善に取り組んでおり、学科の教育目的・目標に沿った授業シラバスを作り、講義を行っている。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>卒業時（1-2月）に、学部での学修期間に対する授業評価アンケートを実施予定</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>アンケート結果を報告書として、学部ホームページ上に公開予定</p>
--

- (注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的を達成するように計画通りに実施している。今後、更に教育・研究の水準の向上を図り、設置の趣旨・目的の実現に向けて取り組むこととしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

学内検討中

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(29年 5月 30日)

○弘前大学農学生命科学部自己評価委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、本学部における教育研究活動の向上を目的として、自ら点検及び評価を行うため、弘前大学農学生命科学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会の任務は、次の各号のとおりとする。

- (1) 弘前大学農学生命科学部自己点検項目表（以下「項目表」という。）に基づき、自己点検の範囲を定め、自己評価の実施計画を作成し、教授会に提案する。
- (2) 自己点検を実施し、その結果を取りまとめる。
- (3) 項目表中の学部全体を対象とする項目については本委員会が自己点検・評価を行う。
- (4) 自己点検・自己評価の結果及び改善すべき事項について教授会に報告する。
- (5) 自己点検・自己評価の結果について教授会の議を経て、公表する。

(組織)

第3条 委員会は、本学部各学科及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センターから選出された専任担当教員（弘前大学農学生命科学部長及び弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター長を除く）各1名で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年半とし、再任を認めない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員の改選は2年ごとに事業年度の開始に合わせて行い、第1項の任期における最後の半年間は新旧委員が重複し、旧委員は「教育改善に向けたアンケート調査報告書」の作成にのみ従事する。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって決める。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長の任期は2年とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員の3名以上の出席をもって成立する。

(委員以外の出席)

第7条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(兼務)

第8条 委員は、弘前大学諸規程に定められた次の室員を兼ねる。

- (1) 評価室員

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、弘前大学農学生命科学部総務グループ総務担当において処理する。

(その他)

第10条 この申合せに定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成16年10月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成22年10月20日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。

○弘前大学農学生命科学部教育改善委員会申合せ

(設置)

第1条 弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）に、弘前大学農学生命科学部教育改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育改善のための企画、調査、研究等に関すること。
- (2) 教育活動の評価に関すること。
- (3) 学生による授業評価に関すること。
- (4) ファカルティ・デベロップメントに関すること。
- (5) その他教育改善に関する事項。

(組織)

第3条 委員会は、弘前大学農学生命科学部運営会議学務担当委員（以下「運営会議委員」という。）及び本学部各学科と弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター（以下「共生センター」という。）から選出された各1名の専任担当教員により構成される。

(委員の任期)

第4条 本学部各学科及び共生センターから選出された委員の任期は2年とし、半数交替制とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 運営会議委員の本委員会委員としての任期は、弘前大学農学生命科学部運営会議委員の任期に関わる申合せによる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、運営会議委員が委員長となる。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第6条 委員会において必要あるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(申合せの改廃)

第7条 この申合せの改廃については、教授会の議を経て弘前大学農学生命科学部長が行う。

附 則

- 1 この申合せは、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この申合せは、平成19年4月1日から施行する。
- 3 この申合せは、平成21年4月1日から施行する。
- 4 この申合せは、平成27年4月1日から施行する。
- 5 この申合せは、平成27年10月1日から施行する。